

学校生活に関する意識調査 (速報)

令和6年10月

栃木県教育委員会

■調査概要

栃木県の不登校児童生徒数は、小・中学校、高等学校（全日制）では令和4（2022）年度において、過去10年で最多となっており、未然防止・初期対応・支援の視点からの取組の充実が必要である。このため、不登校の未然防止及び不登校児童生徒への支援に関する取組の充実に生かすことを目的に、県内の公立小学校・中学校・高等学校に通う児童生徒を対象にアンケートを実施した。

- ・ 調査対象：県内全ての公立 小学校6年生 15,593人、公立 中学校 2年生 15,827人、県立高校 全日制課程の 2年生 10,666人 計約4万人
- ・ 調査方法：1人1台端末等によるweb回答
- ・ 調査時期：令和6（2024）年7月8日（月）～8月20日（火）
- ・ 回収数：小学校 12,381人 中学校 11,436人 高等学校 6,980人

【欠席傾向について】

本資料の一部では、欠席傾向別の集計を行っている。分類方法は、下記の通り。

●欠席あり

- ・ 病気やけが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で、学校を欠席したいと思ったことがあるか。
⇒「よくある」「ときどきある」と回答。
- ・ 病気やけが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で「欠席したい」と思ったとき、実際に学校を欠席したか。
⇒「いつも欠席していた」「ときどき欠席することがあった」と回答

●欠席意向あるが欠席なし

- ・ 病気やけが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で、学校を欠席したいと思ったことがあるか。
⇒「よくある」「ときどきある」と回答。
- ・ 病気やけが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で「欠席したい」と思ったとき、実際に学校を欠席したか。
⇒「ほとんど欠席することはなかった」「欠席することはなかった」と回答

●欠席意向なし

- ・ 病気やけが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で、学校を欠席したいと思ったことがあるか。
⇒「あまりない」「全くない」と回答。

1. 病気やけがが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由による欠席状況

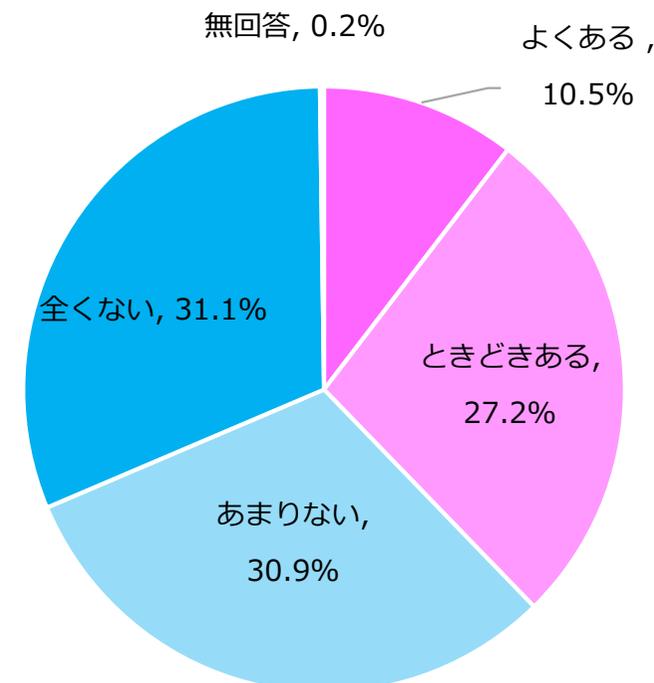
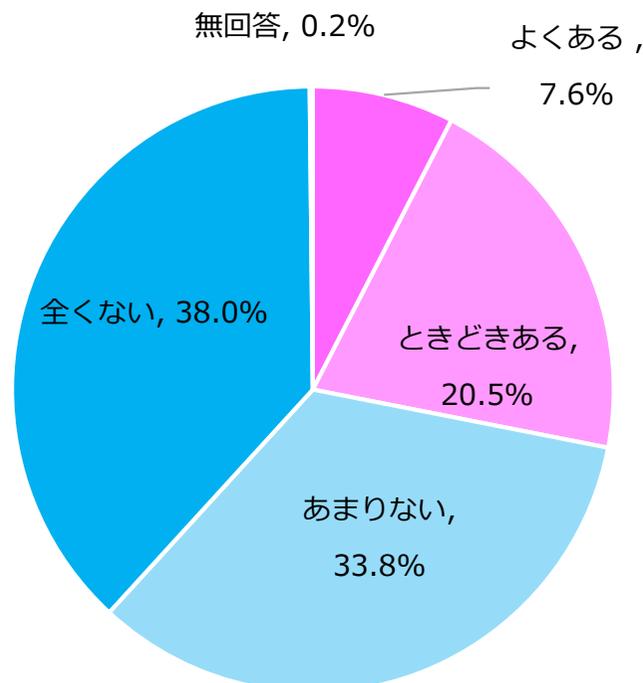
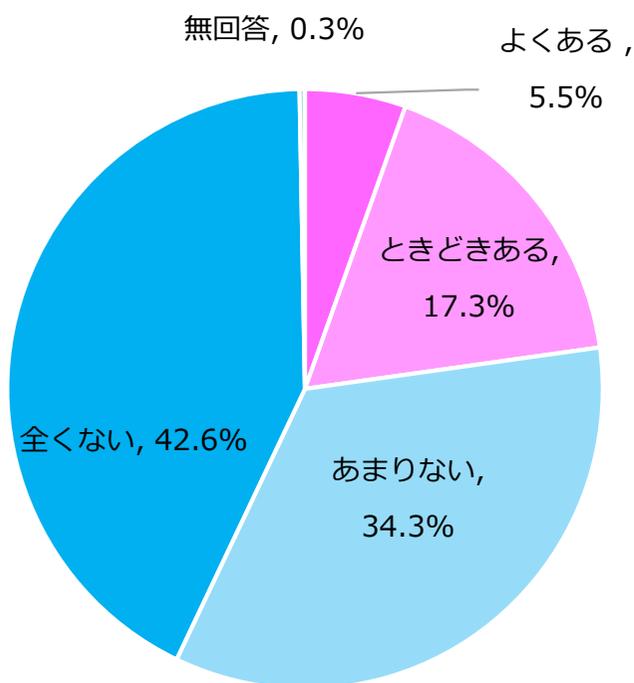
病気やけがが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で、学校を欠席したいと思ったことがあるかみると、小学校では22.8%が、中学校では28.1%が、高等学校では37.7%が「ある（よくある+ときどきある）」と回答した。

病気やけがが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で、学校を欠席したいと思ったことがあるか。

小学校 (n=12,381)

中学校 (n=11,436)

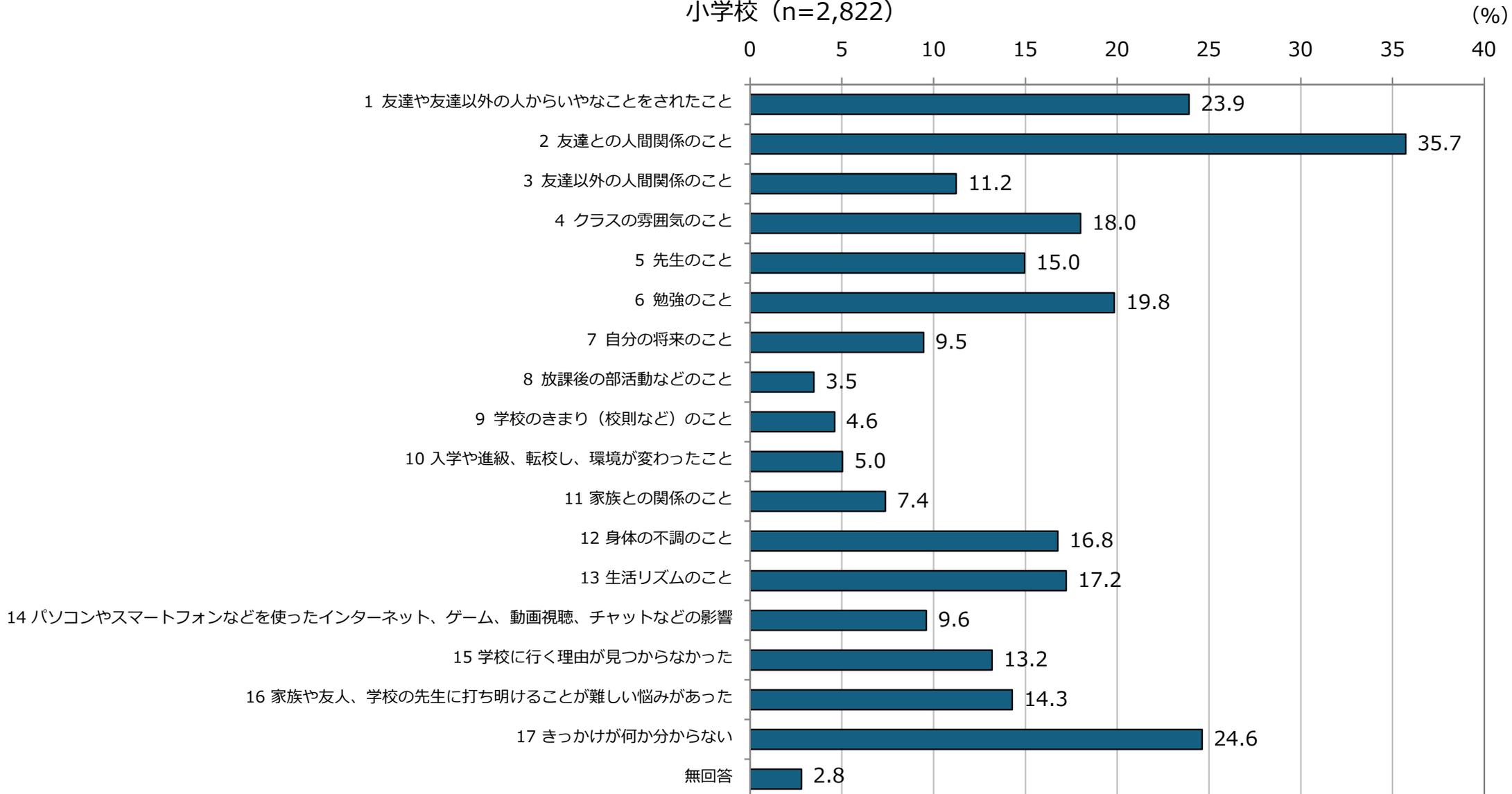
高等学校 (n=6,980)



2. 「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ

「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけについてみると、小学校では、「友達との人間関係のこと」が35.7%と最も割合が高く、次いで「きっかけが何か分からない」が24.6%となっている。

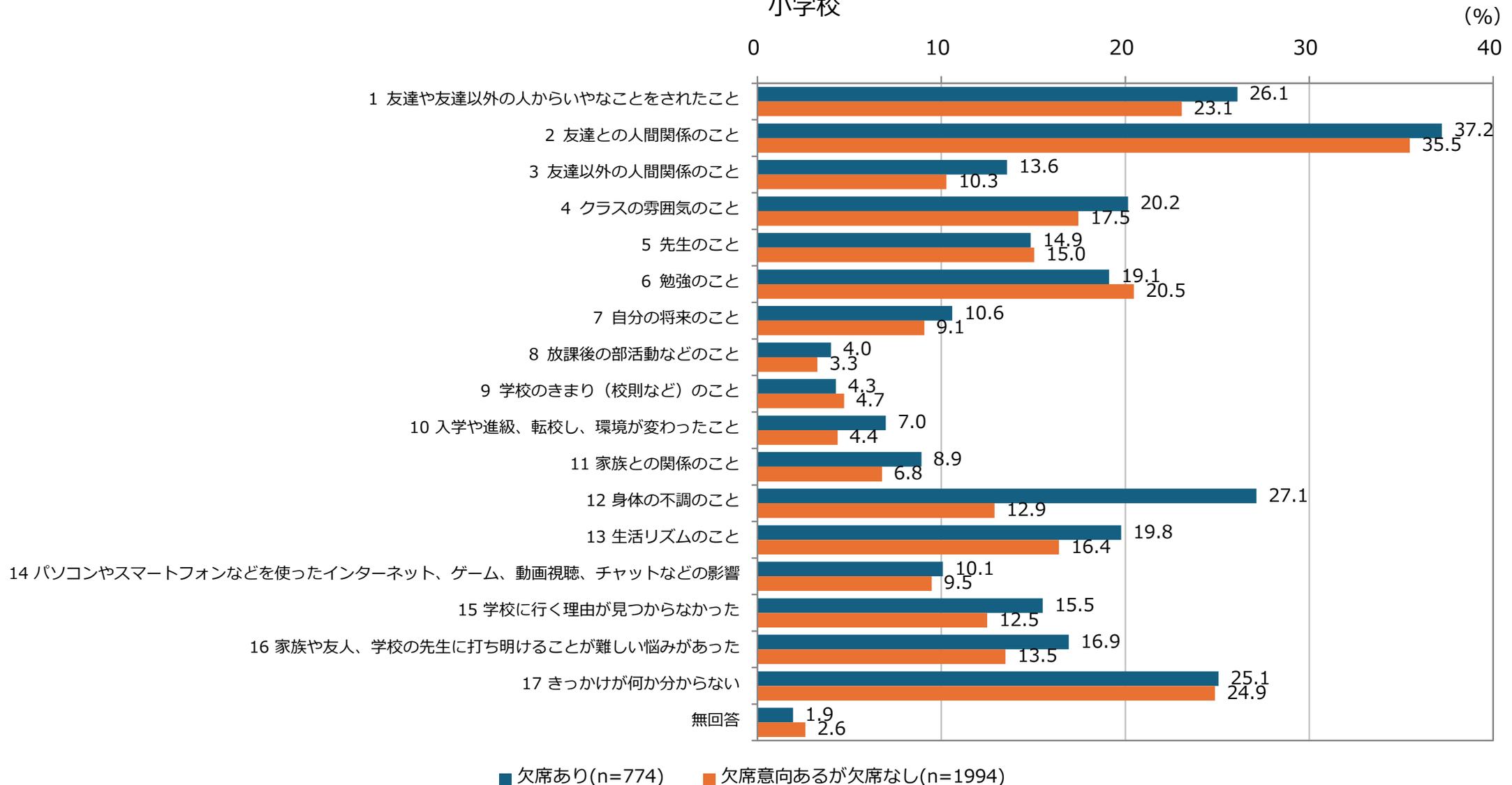
病気やけが以外（気がかりなことがあった場合）の理由で「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ
小学校（n=2,822）



2. 「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ

欠席傾向別に「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけについてみると、小学校では、欠席ありの児童は欠席意向あるが欠席なしの児童と比べて「身体の不調のこと」の割合が高い。

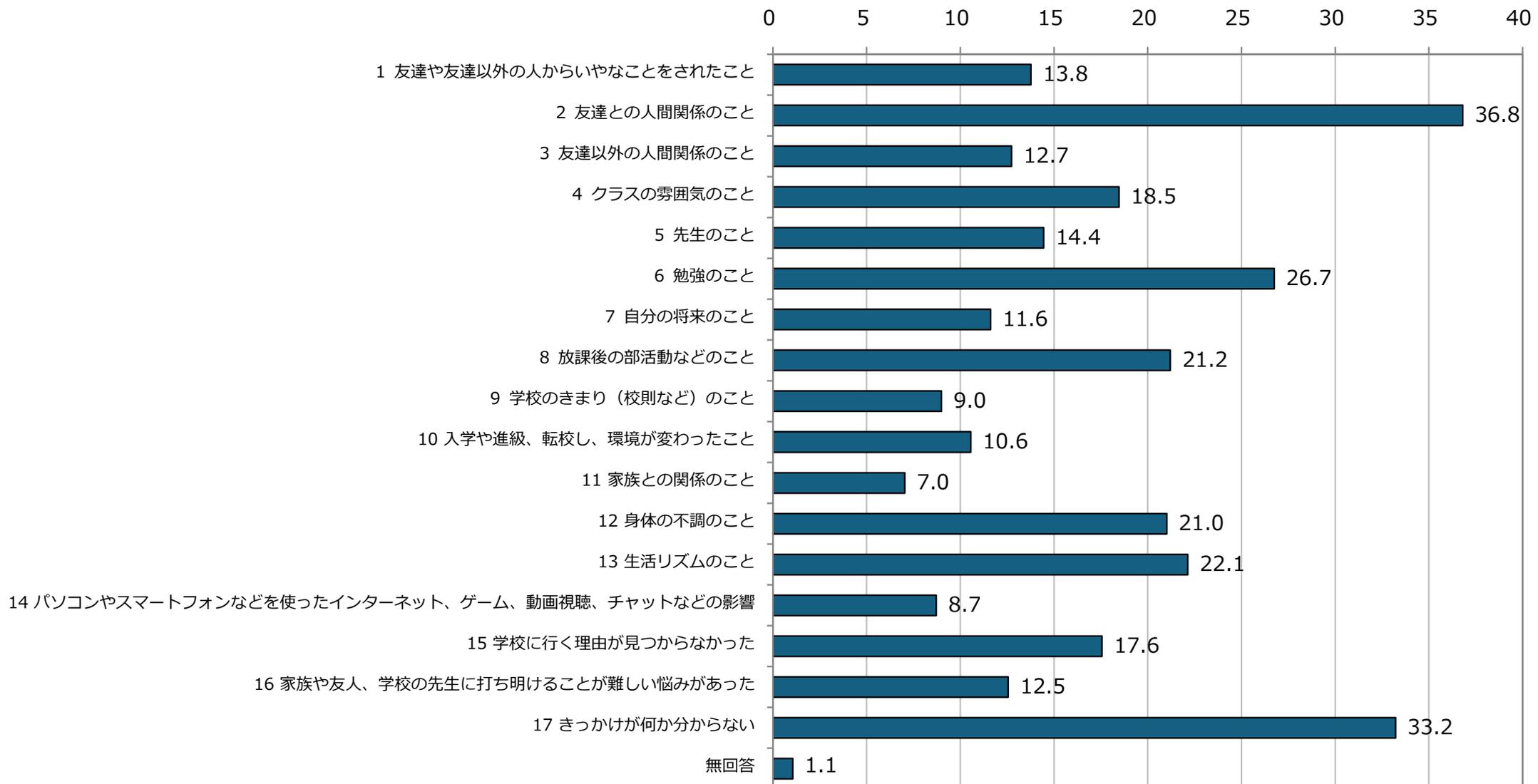
病気やけが以外（気がかりなことがあった場合）の理由で「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ
小学校



2. 「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ

「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけについてみると、中学校では、「友達との人間関係のこと」が36.8%と最も割合が高く、次いで「きっかけが何か分からない」が33.2%となっている。

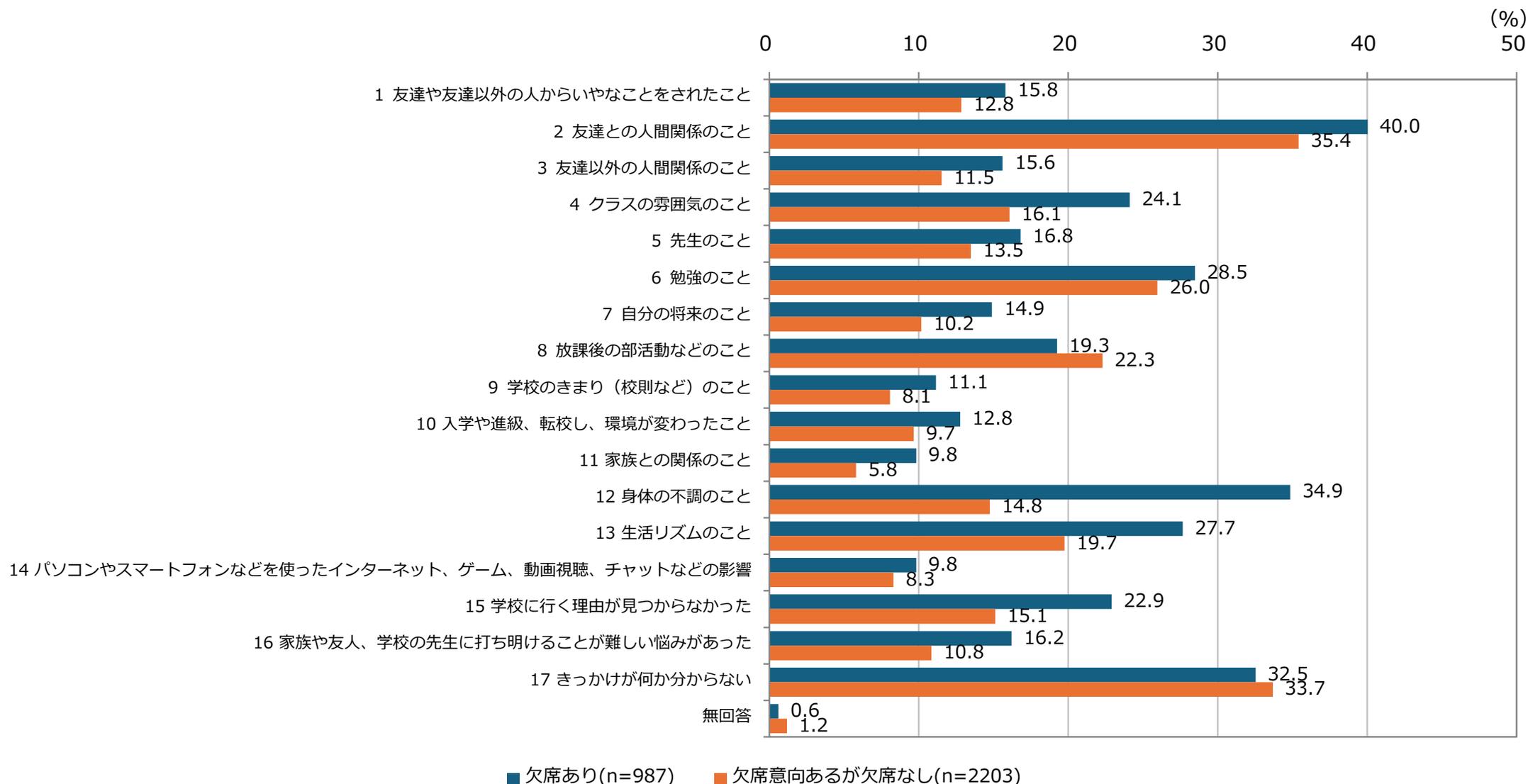
病気やけが以外（気がかりなことがあった場合）の理由で「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ
中学校（n=3,212）



2. 「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ

欠席傾向別に「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけについてみると、中学校では、欠席ありの生徒は欠席意向あるが欠席なしの児童と比べて「身体の不調のこと」「クラスの雰囲気のこと」「生活リズムのこと」「学校に行く理由が見つからなかった」の割合が高い。

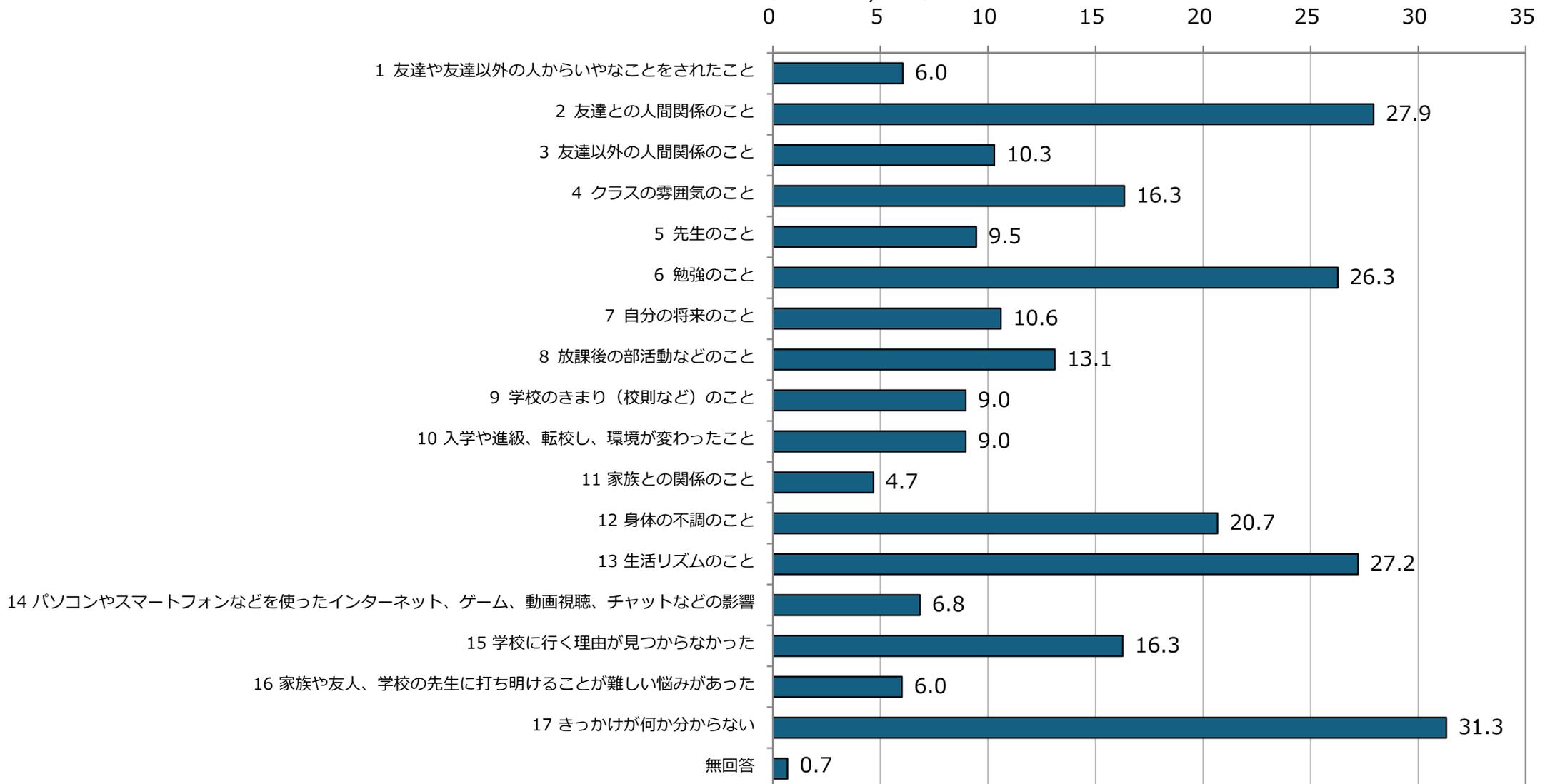
病気やけが以外（気がかりなことがあった場合）の理由で「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ
中学校



2. 「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ

「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけについてみると、高等学校では、「きっかけが何か分からない」が31.3%と最も割合が高い。次いで「友達との人間関係のこと」「生活リズムのこと」「勉強のこと」「身体の不調のこと」が2割を超え高い。

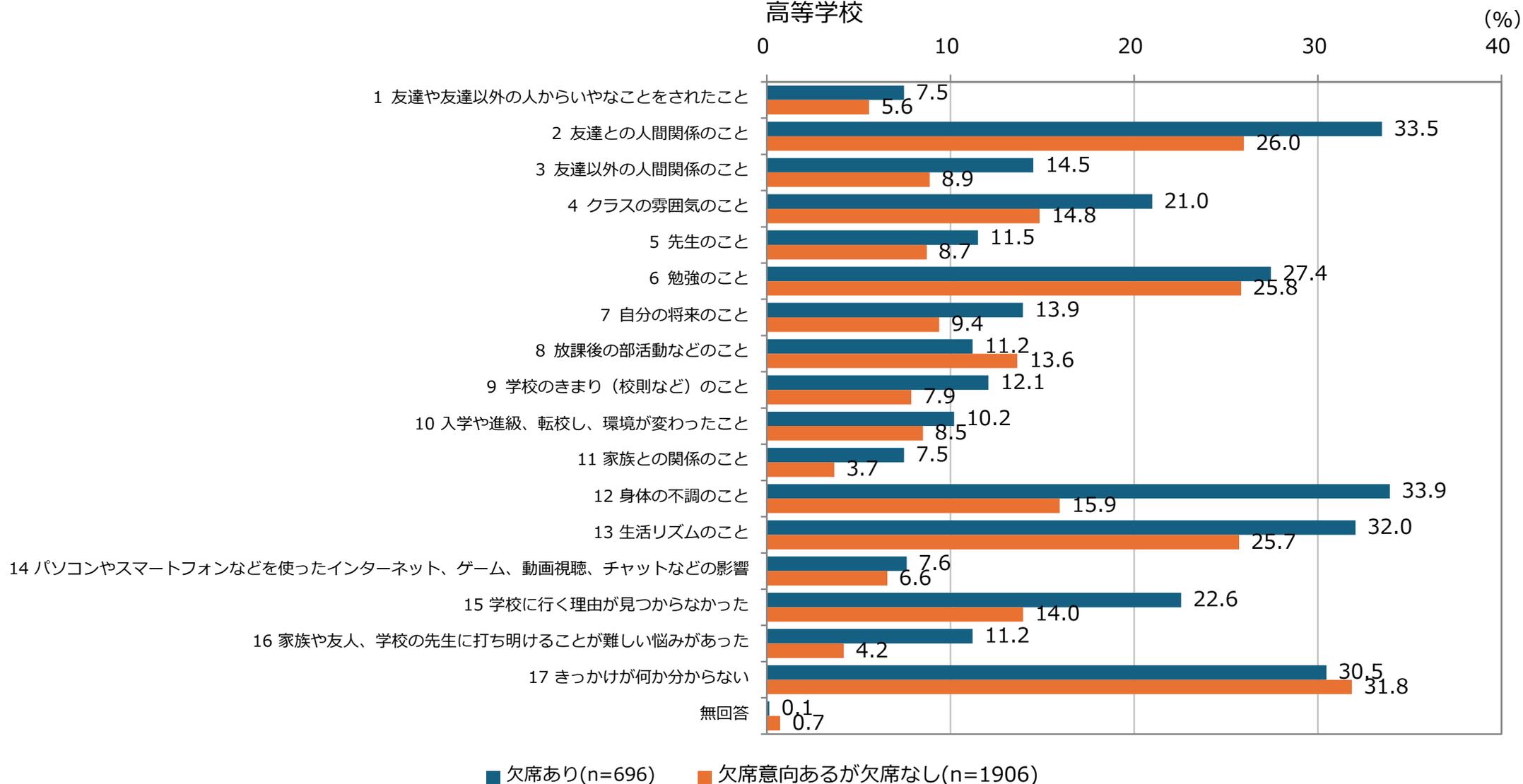
病気やけが以外（気がかりなことがあった場合）の理由で「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ
高等学校（n=2,632）



2. 「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ

欠席傾向別に「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけについてみると、高等学校では、欠席ありの生徒は欠席意向あるが欠席なしの児童と比べて「身体の不調のこと」「学校に行く理由が見つからなかった」「友達との人間関係のこと」「家族や友人、学校の先生に打ち明けることが難しい悩みがあった」の割合が高い。

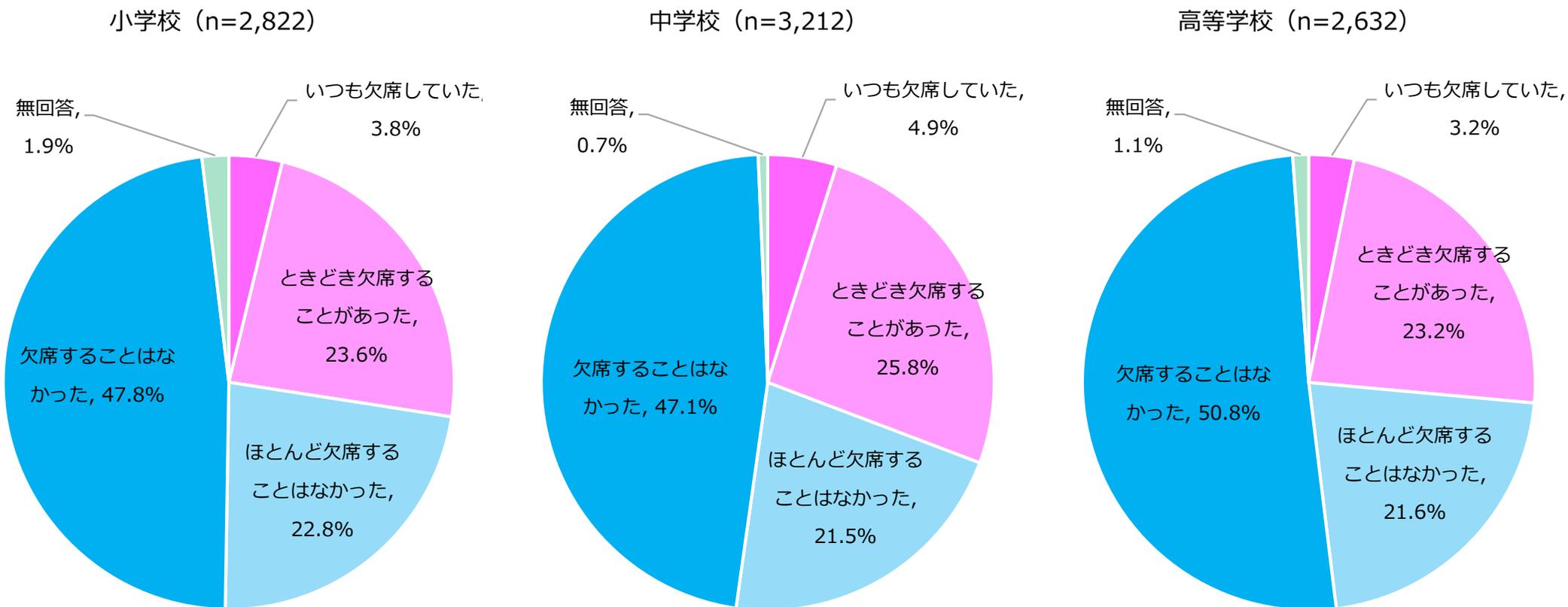
病気やけが以外（気がかりなことがあった場合）の理由で「学校を欠席したい」と思ったときのきっかけ
高等学校



3. 病気やけがが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由による欠席状況

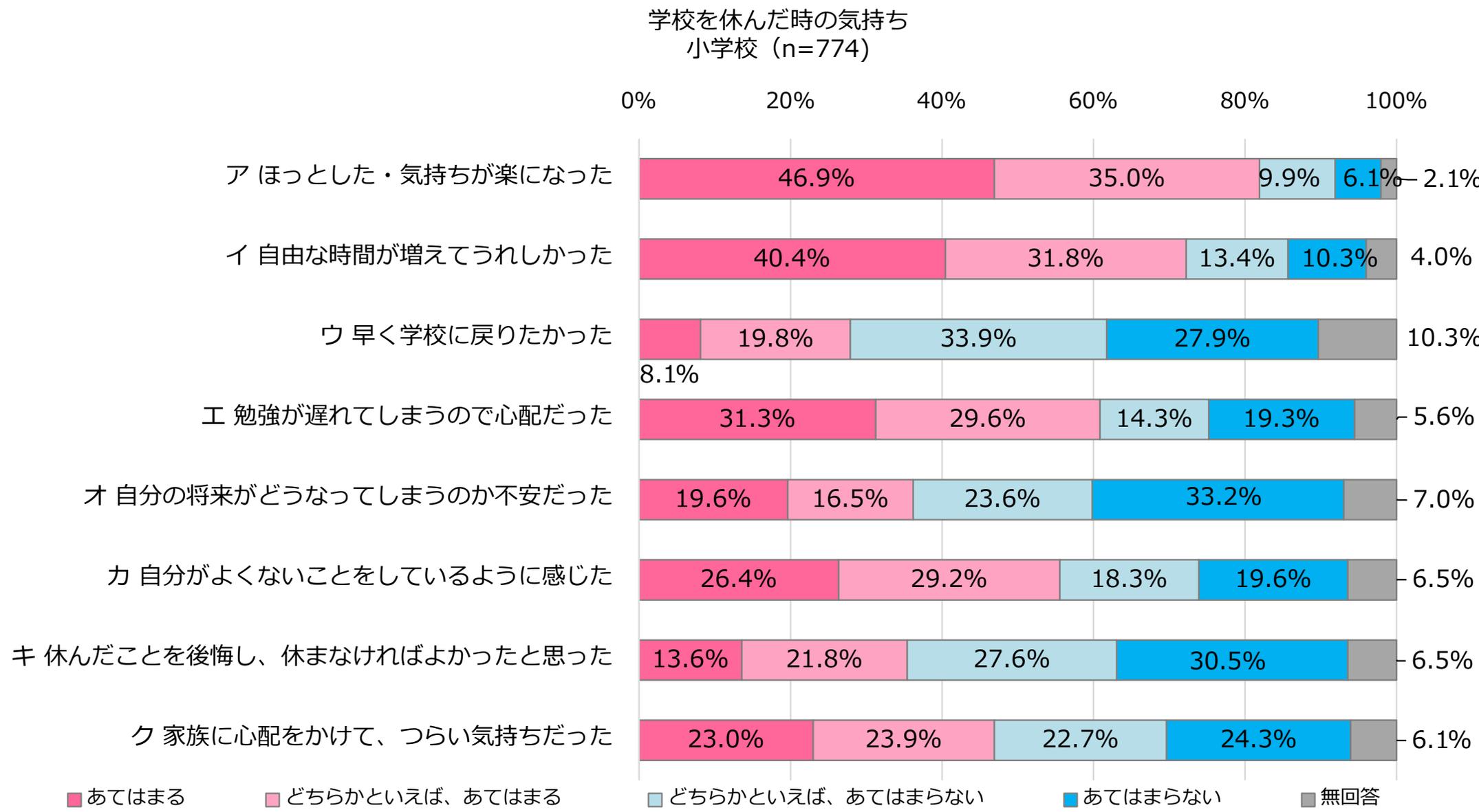
「欠席したい」と思ったとき、実際に学校を欠席したかをみると、小学校では27.4%が、中学校では30.7%が、高等学校では26.4%が「欠席した（いつも欠席していた+ときどき欠席することがあった）」と回答した。

病気やけがが以外（気がかりなことがあった場合など）の理由で「欠席したい」と思ったとき、実際に学校を欠席したか。



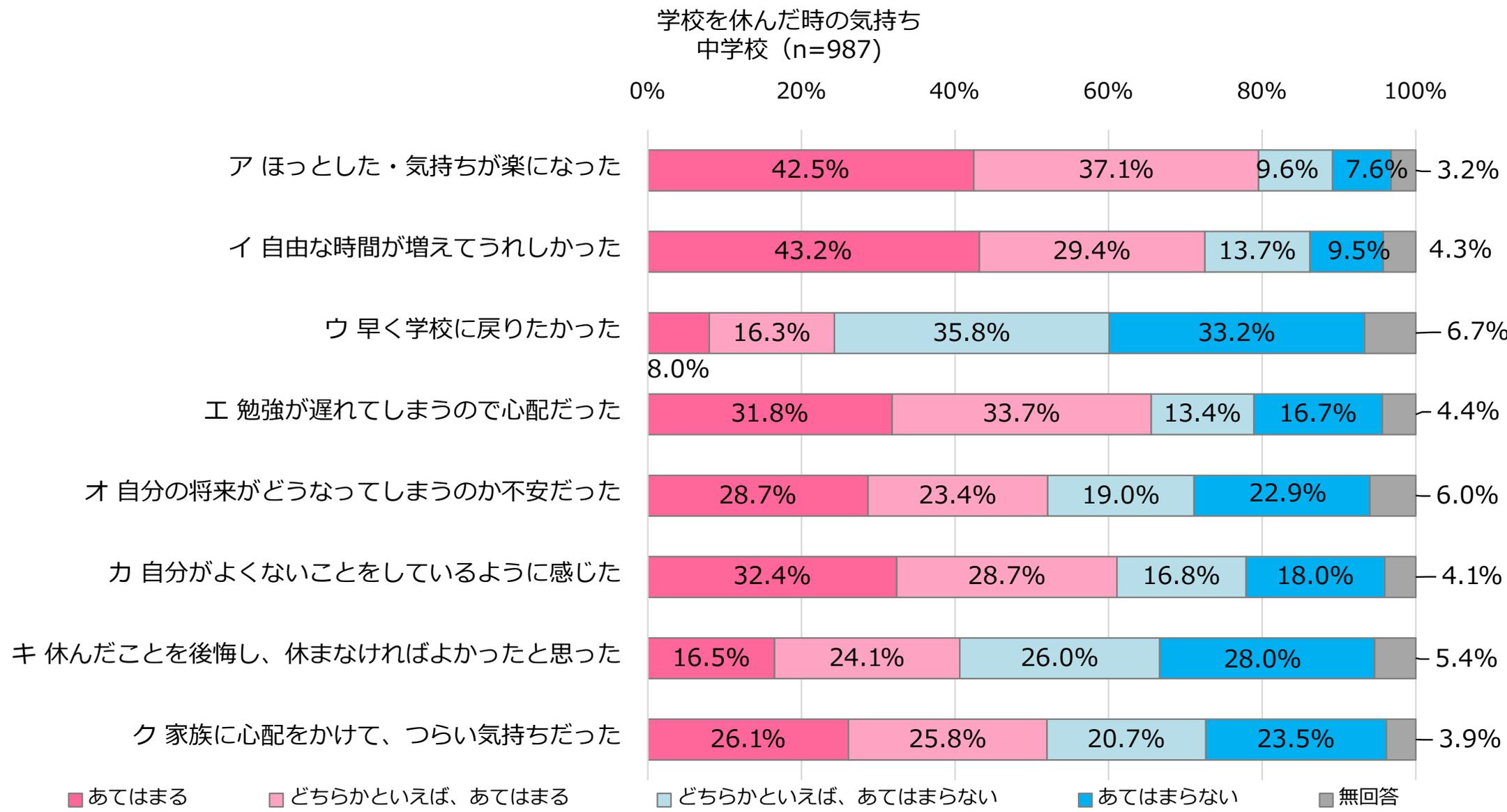
4. 学校を休んだ時の気持ち

学校を休んだ時の気持ちについてみると、小学校では、「ほっとした・気持ちが楽になった（81.9%）」「自由な時間が増えてうれしかった（72.2%）」にあてはまる（「あてはまる」+「ややあてはまる」）割合が高い。一方、「勉強が遅れてしまうので心配だった」にあてはまる児童も6割を超えている。



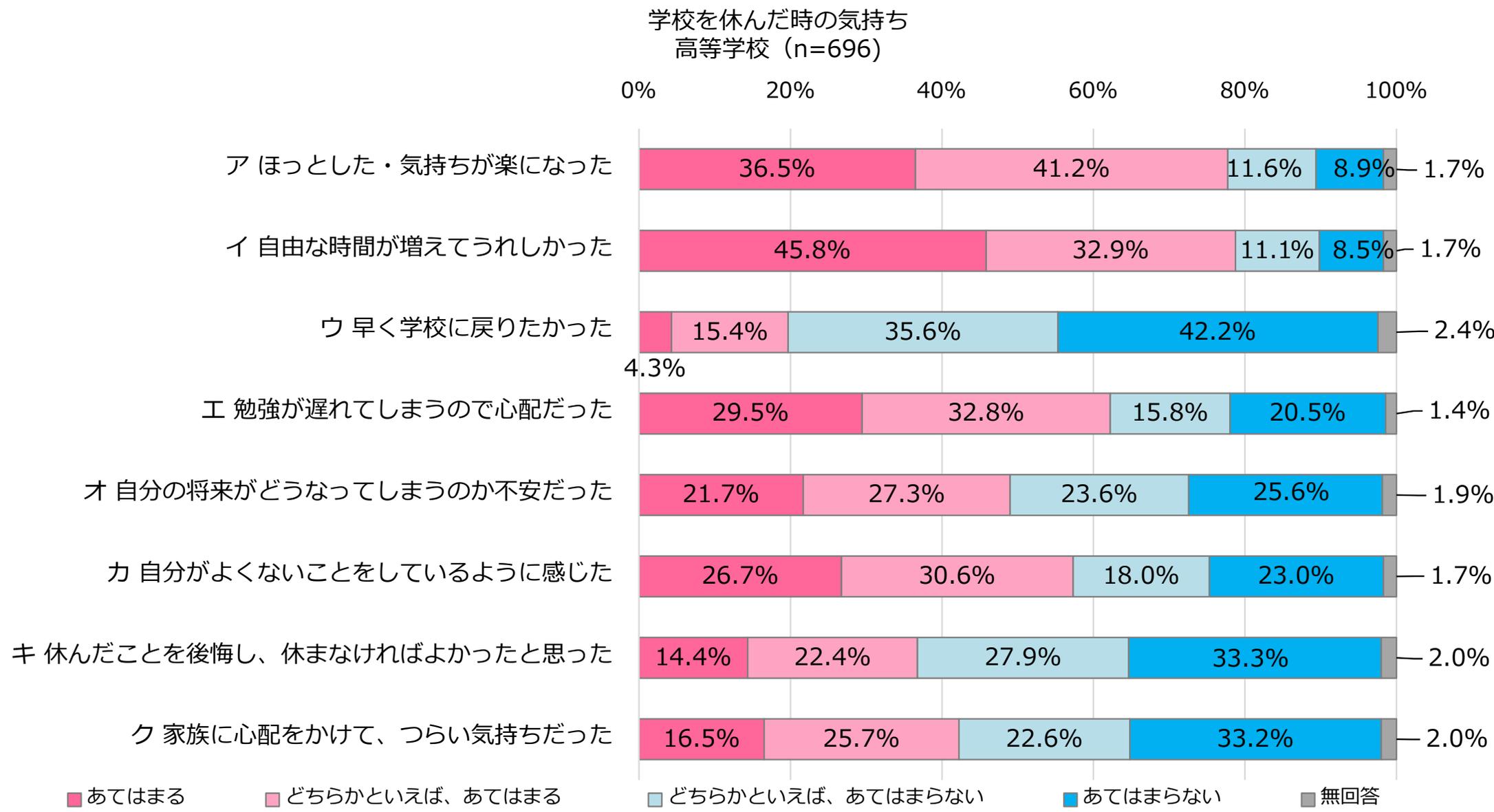
4. 学校を休んだ時の気持ち

学校を休んだ時の気持ちについてみると、中学校では、「ほっとした・気持ちが楽になった（79.6%）」「自由な時間が増えてうれしかった（72.6%）」にあてはまる（「あてはまる」+「ややあてはまる」）割合が高い。一方、「勉強が遅れてしまうので心配だった」「自分がよくないことをしているように感じた」にあてはまる生徒も6割を超えている。



4. 学校を休んだ時の気持ち

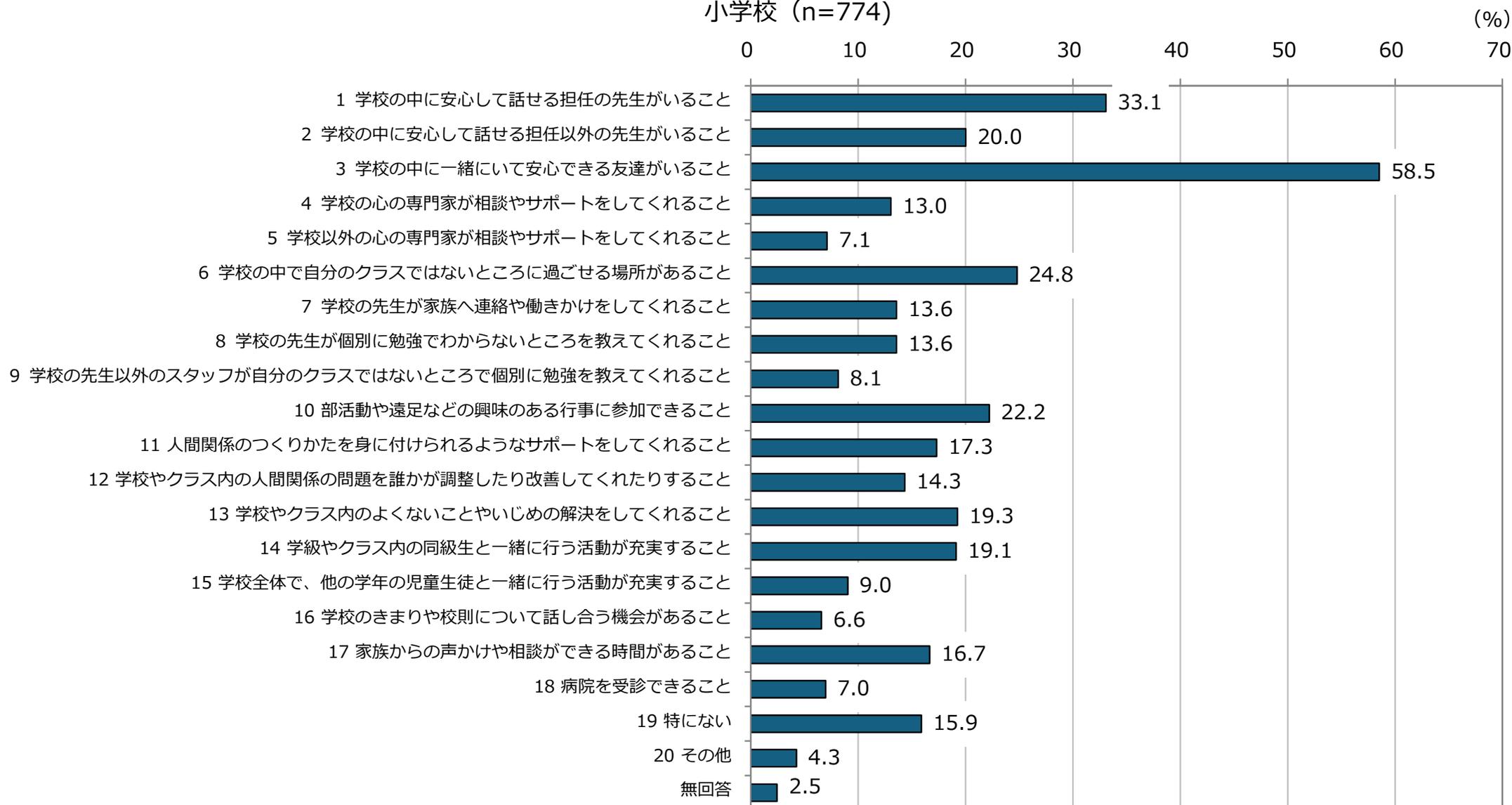
学校を休んだ時の気持ちについてみると、高等学校では、「自由な時間が増えてうれしかった（78.7%）」「ほっとした・気持ちが楽になった（77.7%）」にあてはまる（「あてはまる」+「ややあてはまる」）割合が高い。一方、「勉強が遅れてしまうので心配だった」にあてはまる生徒も6割を超えている。



5. 学校を欠席したい気持ちを減らせること

欠席したときを振り返り、どのようなことがあれば学校を欠席したい気持ちを減らせたと思うかについてみると、小学校では、「学校の中に一緒にいて安心できる友達がいること」の割合が58.5%と最も高く、次いで「学校の中に安心して話せる担任の先生がいること」が33.1%となっている。

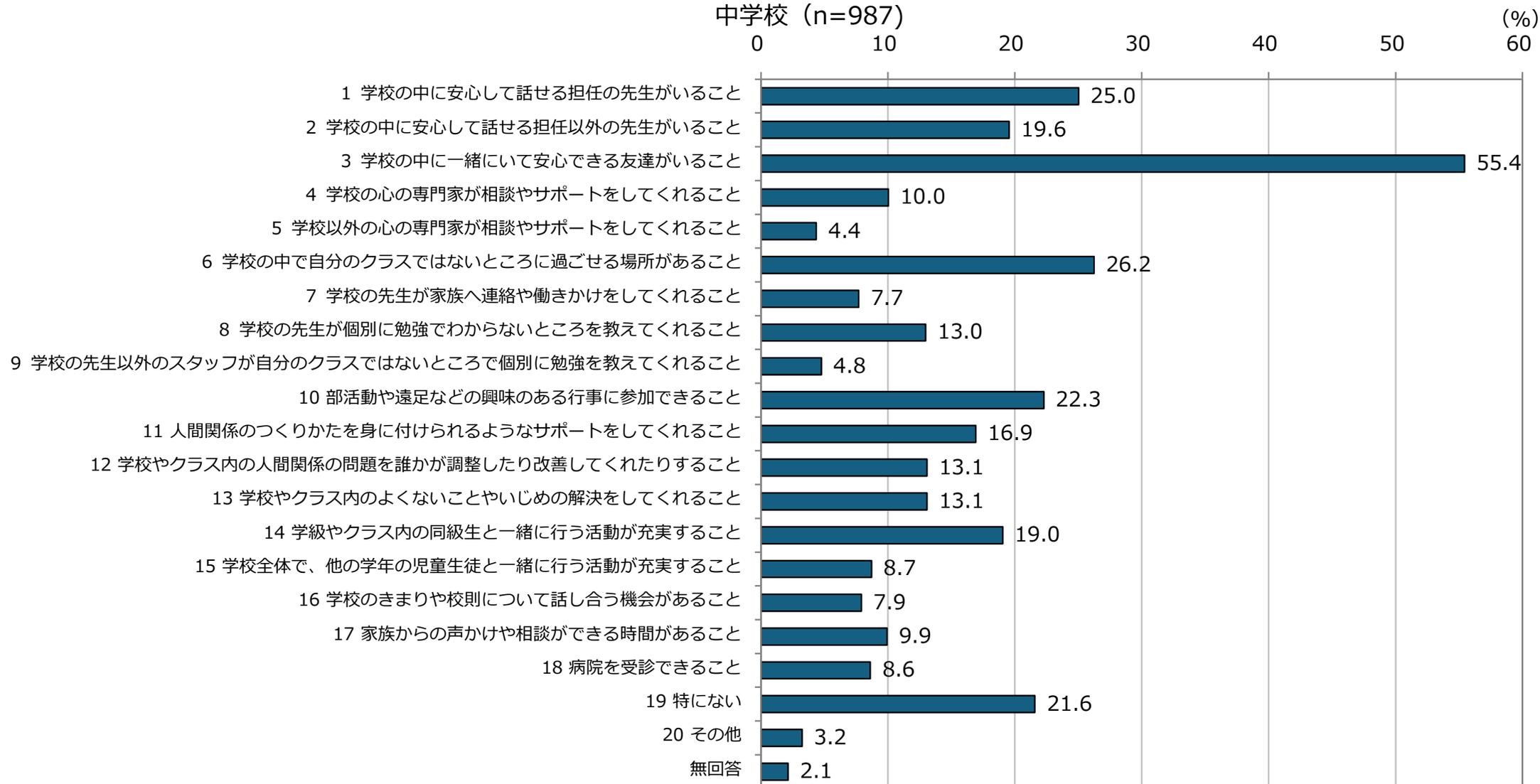
欠席したときを振り返り、どのようなことがあれば学校を欠席したい気持ちを減らせたと思うか
小学校 (n=774)



5. 学校を欠席したい気持ちを減らせること

欠席したときを振り返り、どのようなことがあれば学校を欠席したい気持ちを減らせたと思うかについてみると、中学校では、「学校の中に一緒にいて安心できる友達がいること」の割合が55.4%と最も高い。次いで「学校の中で自分のクラスではないところに過ごせる場所があること（26.2%）」「学校の中に安心して話せる担任の先生がいること（25.0%）」の割合が高い。

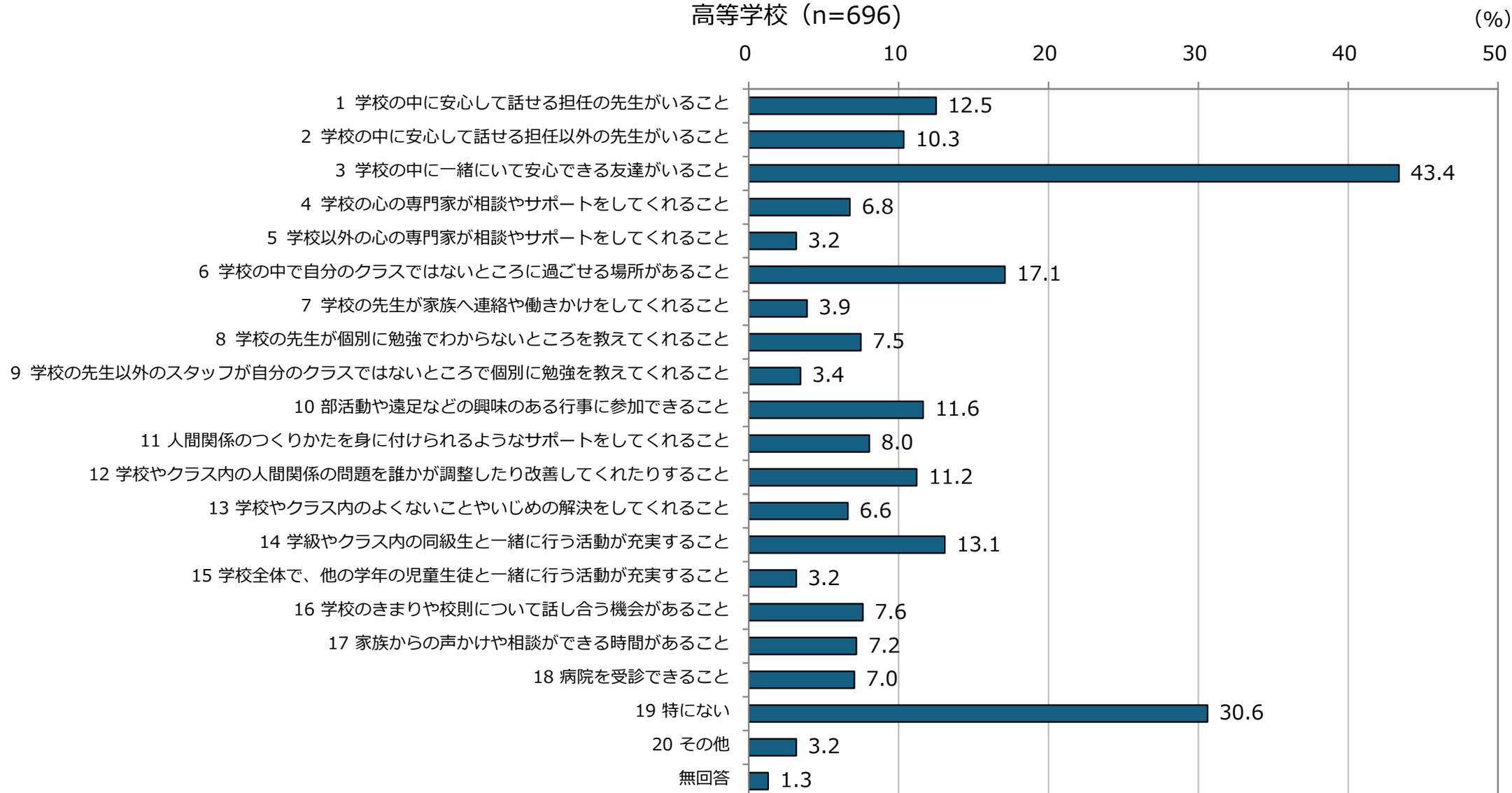
欠席したときを振り返り、どのようなことがあれば学校を欠席したい気持ちを減らせたと思うか
中学校 (n=987)



5. 学校を欠席したい気持ちを減らせること

欠席したときを振り返り、どのようなことがあれば学校を欠席したい気持ちを減らせたと思うかについてみると、高等学校では、「学校の中に一緒にいて安心できる友達がいること」の割合が43.4%と最も高い。次いで「特にない」が30.6%となっている。

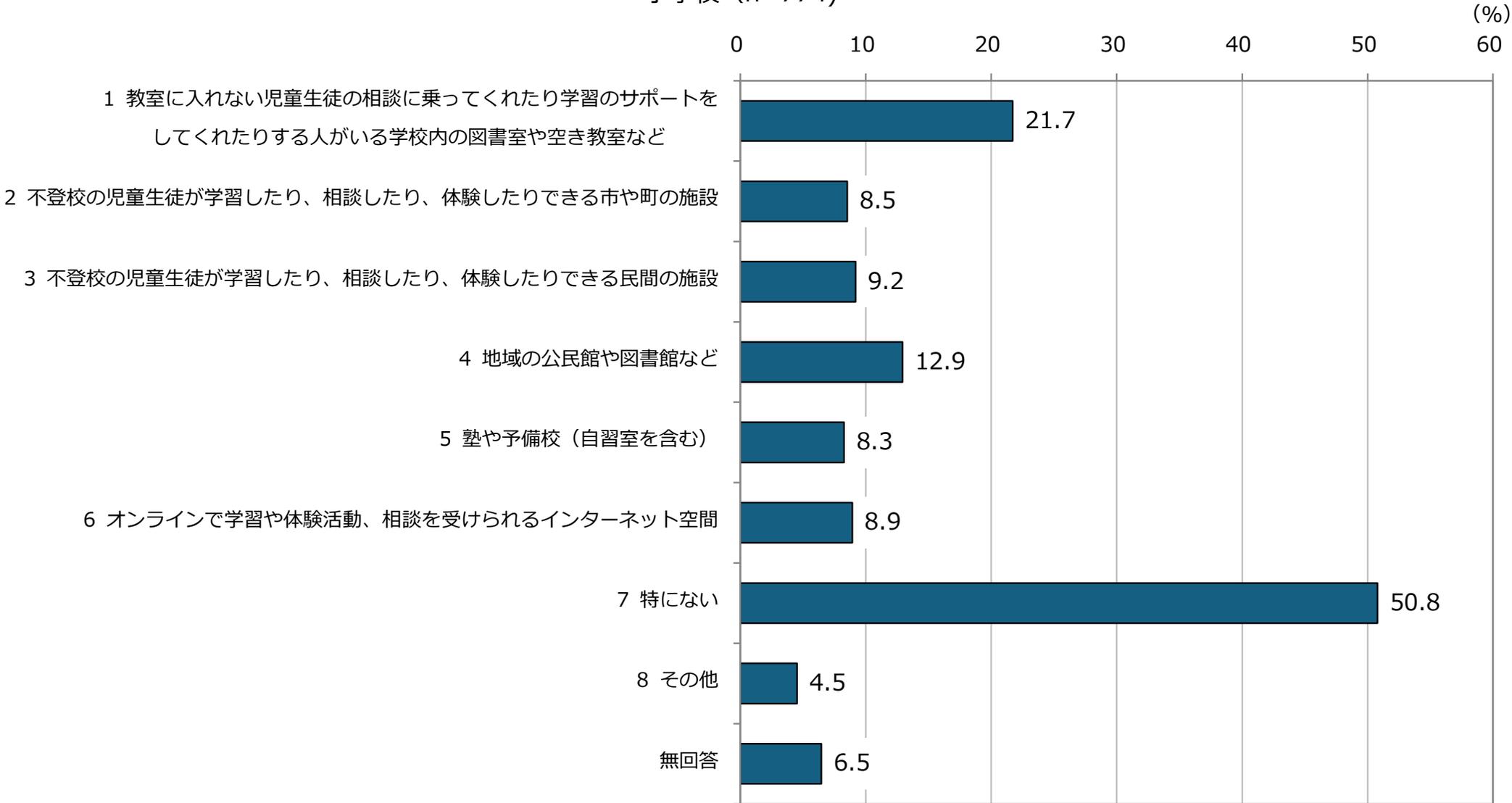
欠席したときを振り返り、どのようなことがあれば学校を欠席したい気持ちを減らせたと思うか
高等学校 (n=696)



6. 学校を欠席したときに過ごしたかった自宅以外の場所

学校を欠席したとき、自宅以外にどのような場所で過ごしたかったと思うかについてみると、小学校では、「特にない」の割合が50.8%と最も高い。次いで「教室に入れない児童生徒の相談に乗ってくれたり学習のサポートをしてくれたりする人がいる学校内の図書室や空き教室など」が21.7%となっている。

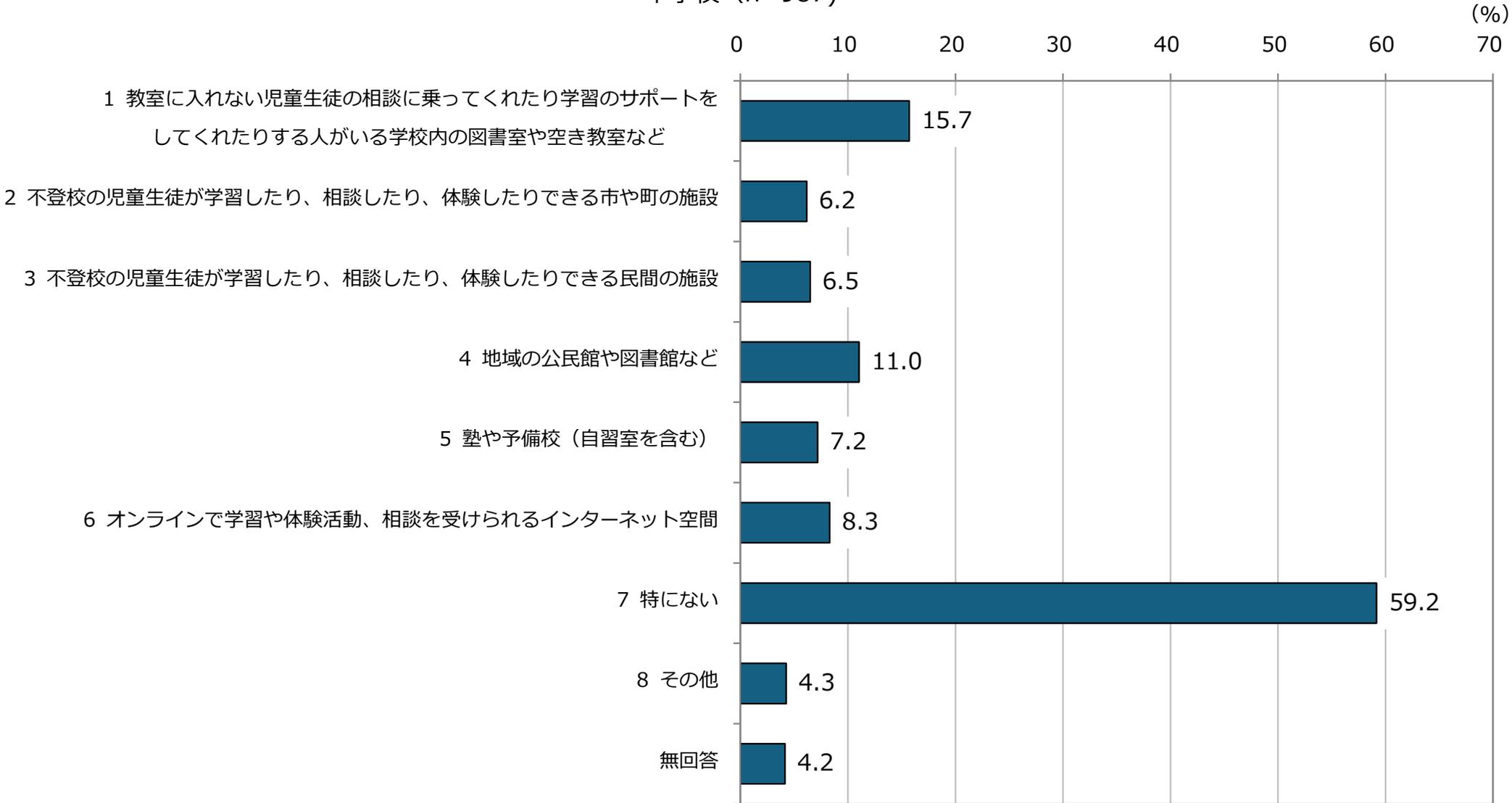
病気やけが以外の理由で学校を欠席したとき (欠席しているとき)、自宅以外にどのような場所で過ごしたかったと思うか。
小学校 (n=774)



6. 学校を欠席したときに過ごしたかった自宅以外の場所

学校を欠席したとき、自宅以外にどのような場所で過ごしたかったと思うかについてみると、中学校では、「特にない」の割合が59.2%と最も高い。次いで「教室に入れない児童生徒の相談に乗ってくれたり学習のサポートをしてくれたりする人がいる学校内の図書室や空き教室など」が15.7%となっている。

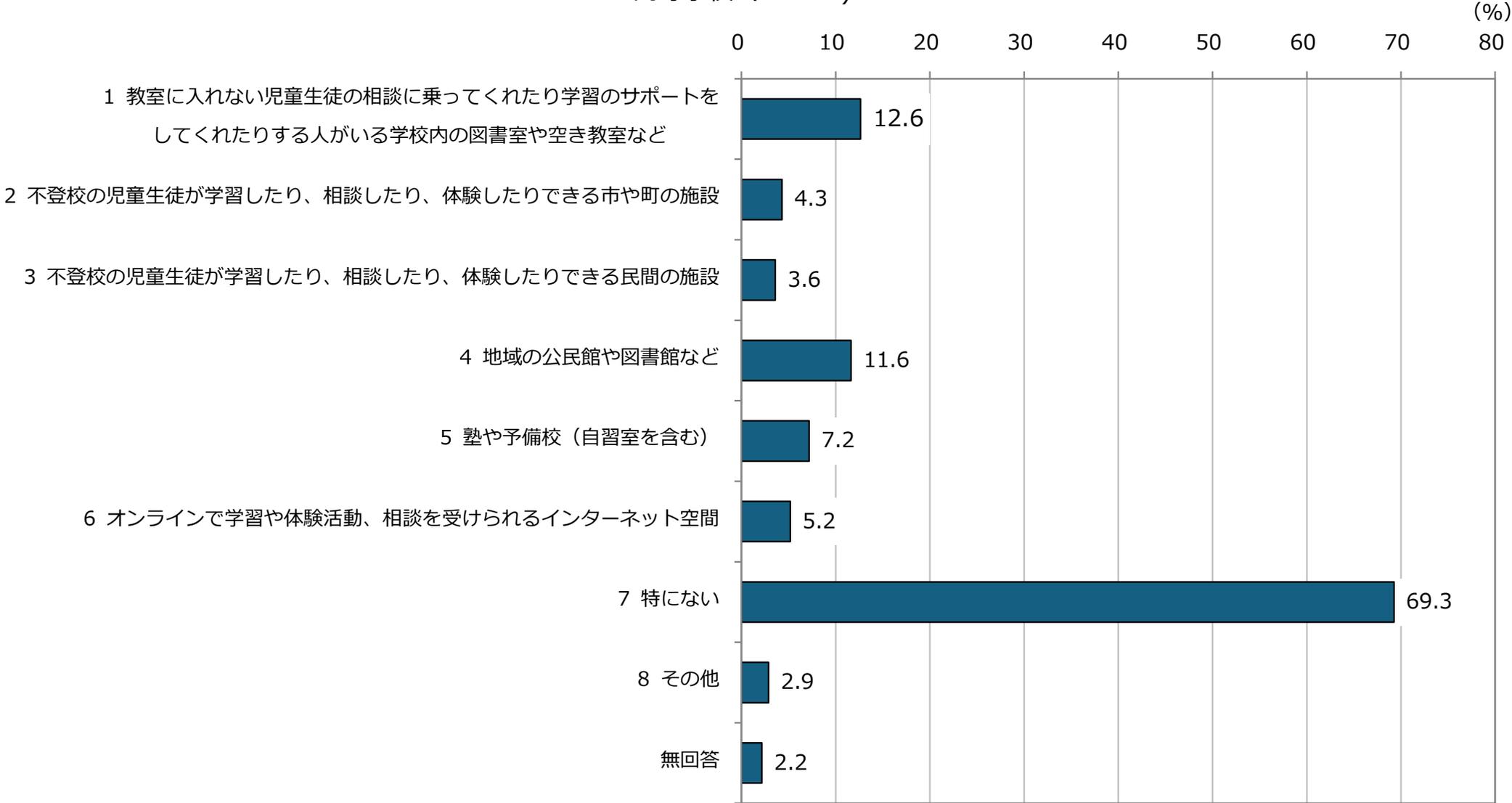
病気やけが以外の理由で学校を欠席したとき（欠席しているとき）、自宅以外にどのような場所で過ごしたかったと思うか。
中学校（n=987）



6. 学校を欠席したときに過ごしたかった自宅以外の場所

学校を欠席したとき、自宅以外にどのような場所で過ごしたかったと思うかについてみると、高等学校では、「特にない」の割合が69.3%と最も高い。「教室に入れない児童生徒の相談に乗ってくれたり学習のサポートをしてくれたりする人がいる学校内の図書室や空き教室など」「地域の公民館や図書館など」が1割程度となっている。

病気やけが以外の理由で学校を欠席したとき（欠席しているとき）、自宅以外にどのような場所で過ごしたかったと思うか。
高等学校（n=696）

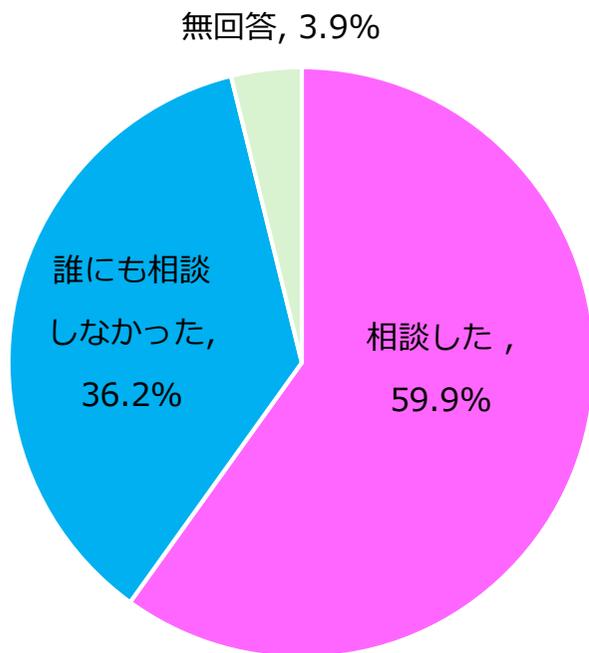


7. 欠席についての相談有無

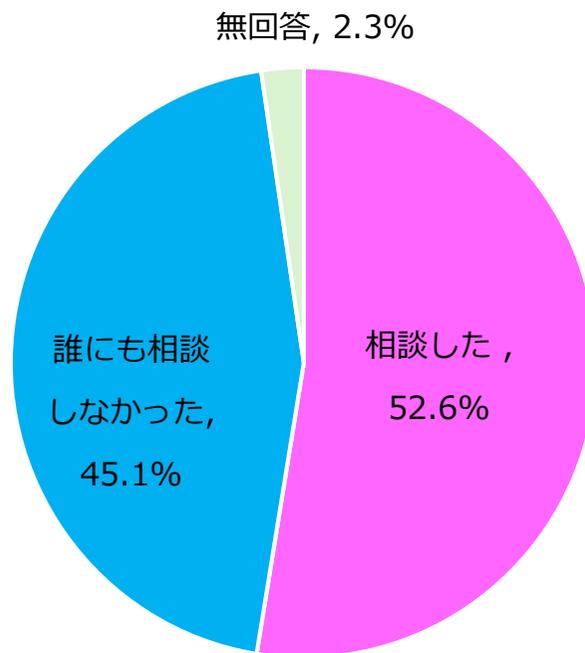
「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき、そのことを相談したかについては、小学校では59.9%が、中学校では52.6%が、高等学校では48.9%が「相談した」と回答した。

「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき(欠席していた間)、そのことを相談したか。

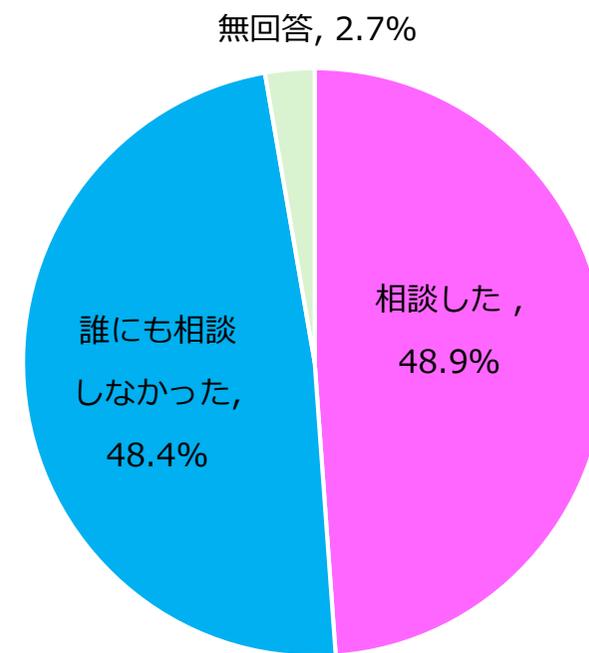
小学校 (n=774)



中学校 (n=987)



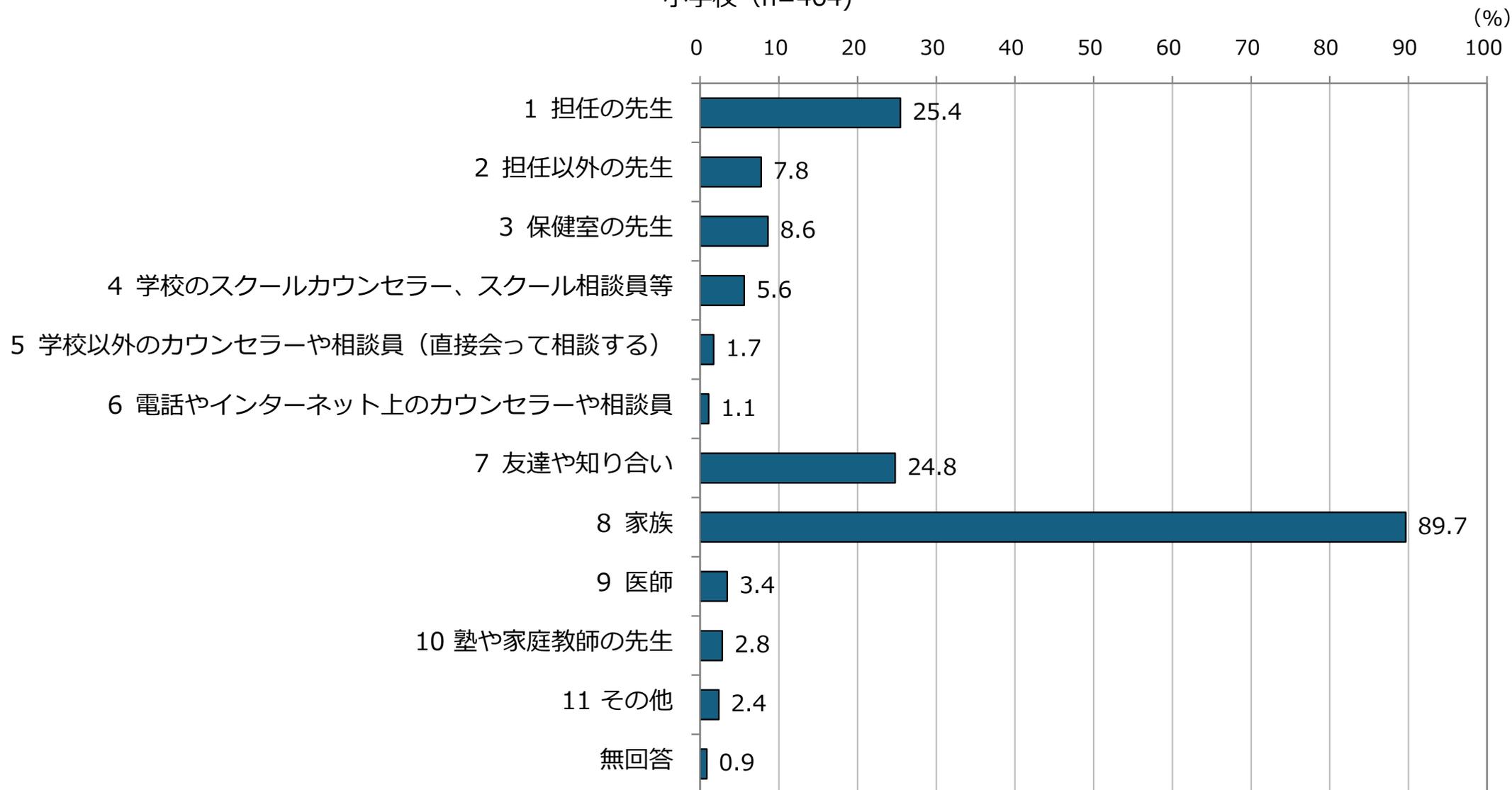
高等学校 (n=696)



8. 欠席についての相談相手

「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき、誰に相談したかについてみると、小学校では「家族」の割合が89.7%と最も高く、次いで「担任の先生」が25.4%となっている。

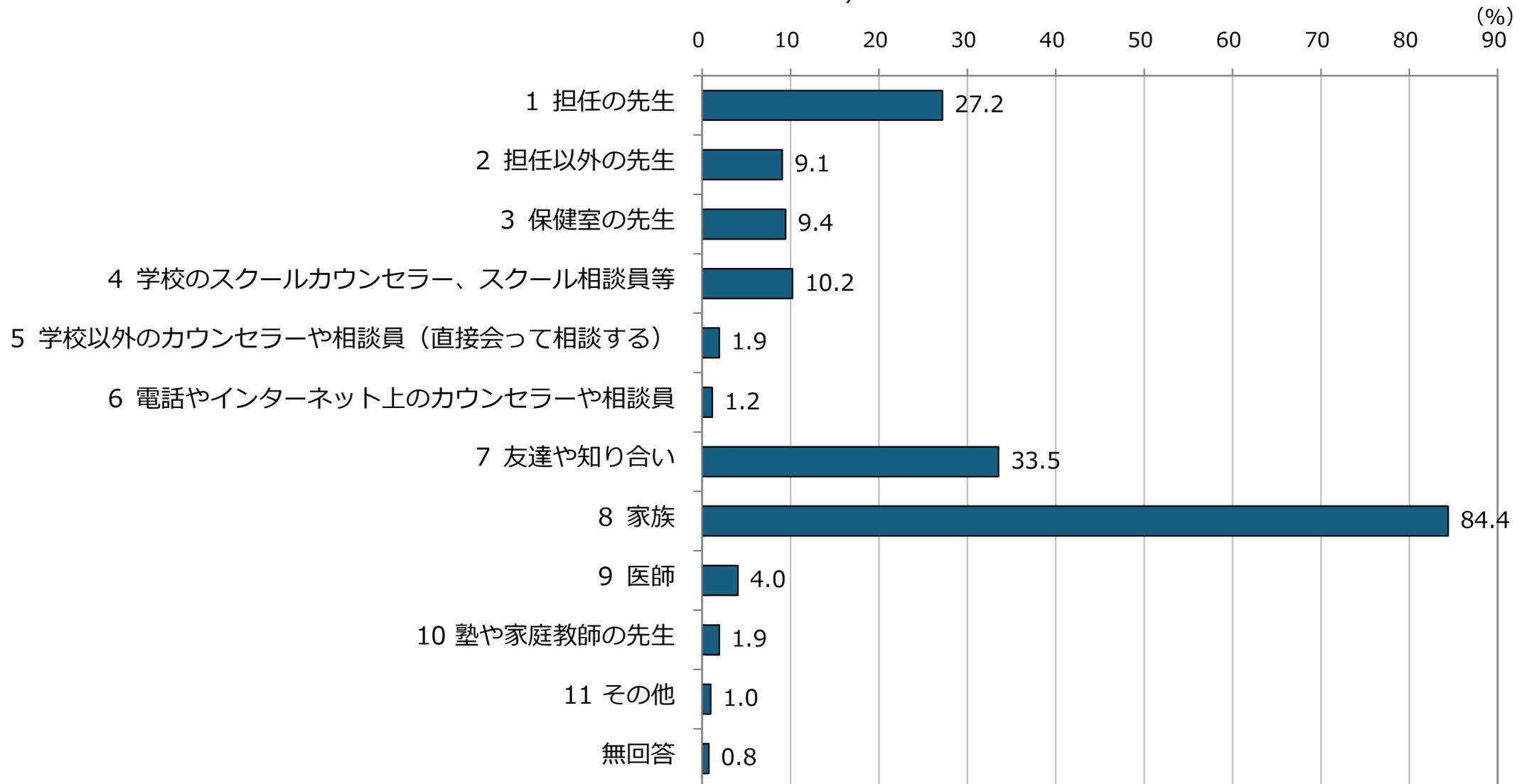
「病気やけが以外の理由で「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき(欠席していた間)、誰に相談したか。
小学校 (n=464)



8. 欠席についての相談相手

「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき、誰に相談したかについてみると、中学校では「家族」の割合が84.4%と最も高く、次いで「友達や知り合い」が33.5%、「担任の先生」が27.2%となっている。

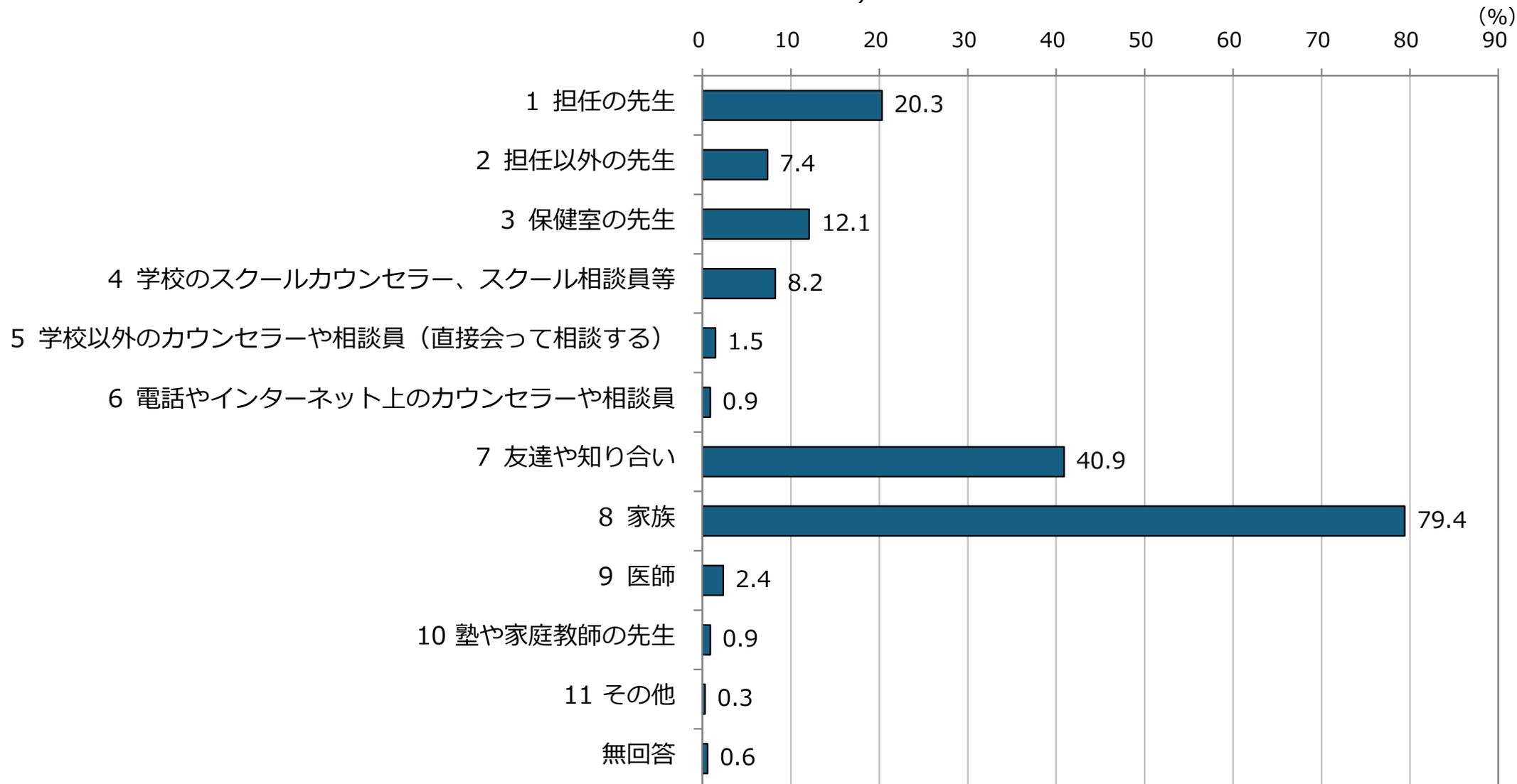
「病気やけが以外の理由で「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき(欠席していた間)、誰に相談したか。
中学校 (n=519)



8. 欠席についての相談相手

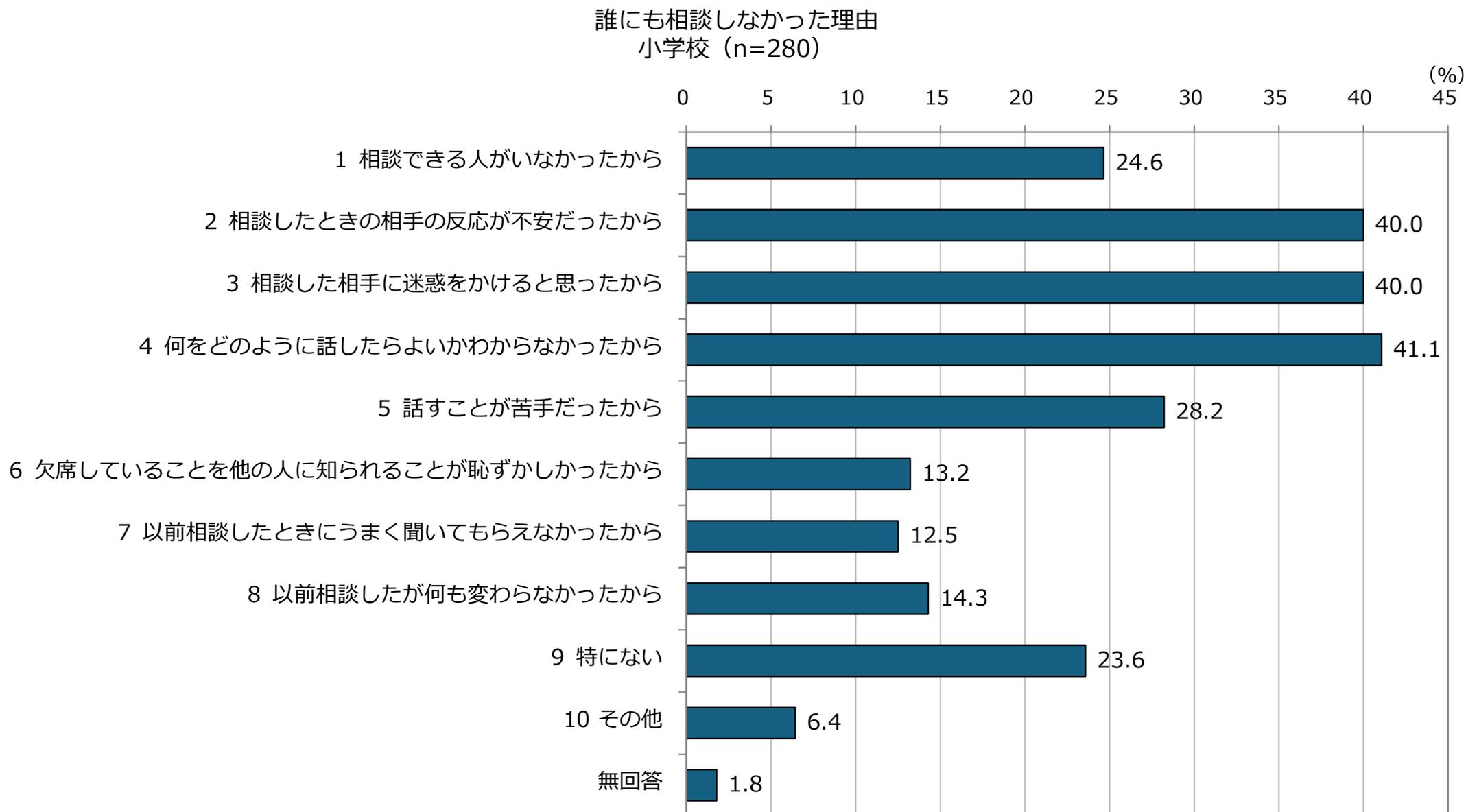
「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき、誰に相談したかについてみると、高等学校では「家族」の割合が79.4%と最も高く、次いで「友達や知り合い」が40.9%、「担任の先生」が20.3%となっている。

「病気やけが以外の理由で「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき(欠席していた間)、誰に相談したか。
高等学校 (n=340)



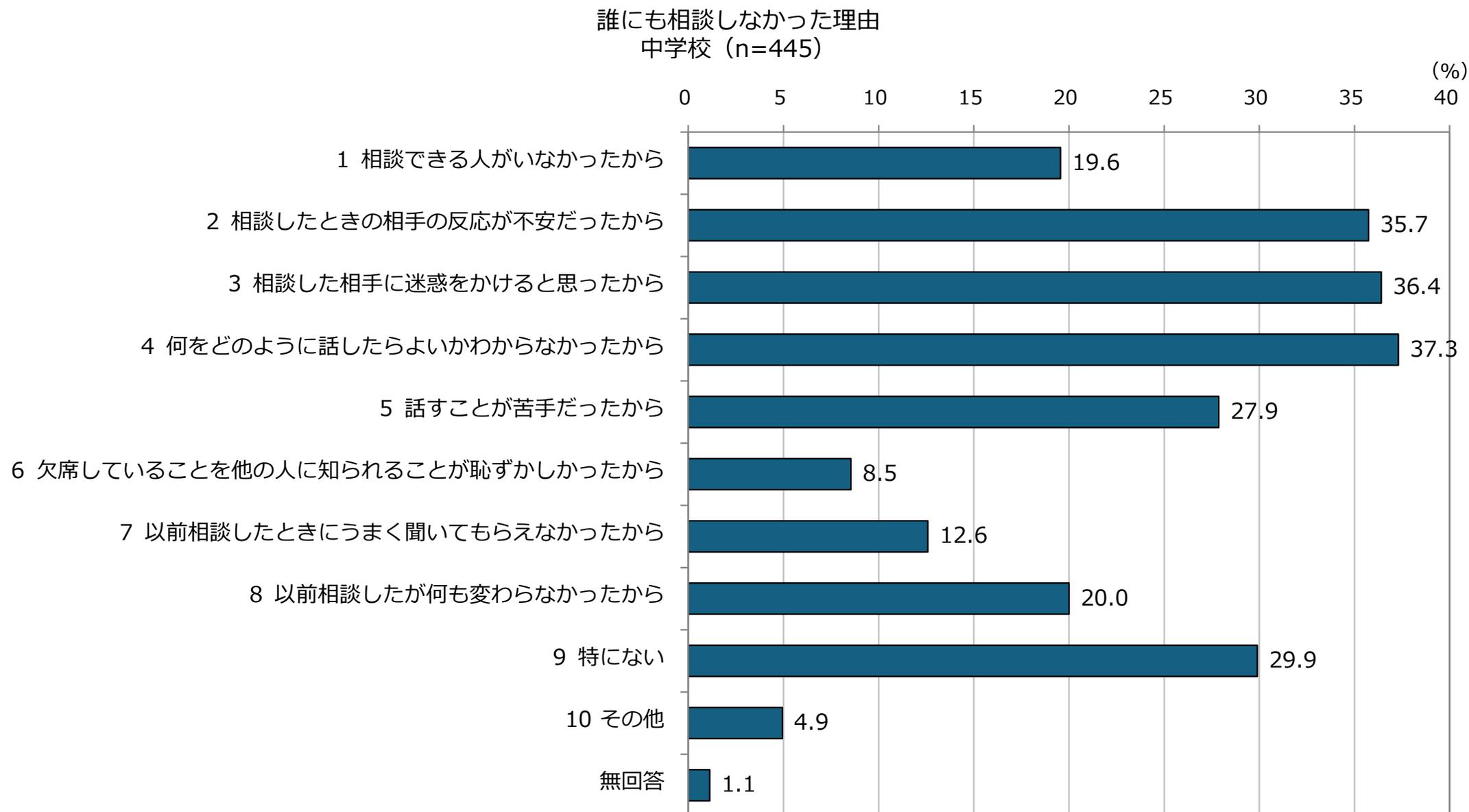
9. 相談しなかった理由

「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき、誰にも相談しなかった理由についてみると、小学校では、「何をどのように話したらよいかわからなかったから」「相談したときの相手の反応が不安だったから」「相談した相手に迷惑をかけると思ったから」がそれぞれ4割程度と割合が高い。



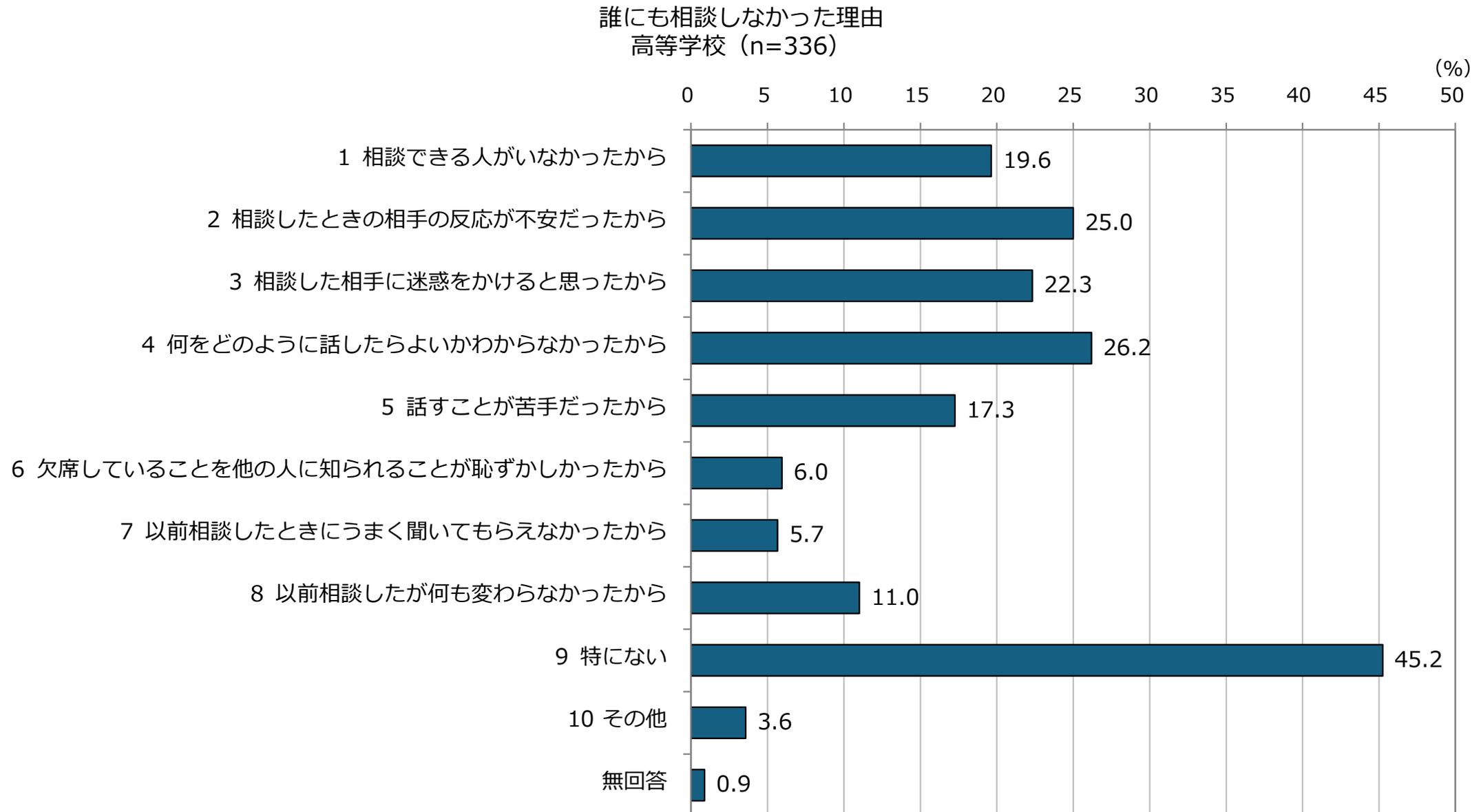
9. 相談しなかった理由

「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき、誰にも相談しなかった理由についてみると、中学校では「何をどのように話したらよいかわからなかったから」「相談した相手に迷惑をかけると思ったから」「相談したときの相手の反応が不安だったから」がそれぞれ4割弱と割合が高い。



9. 相談しなかった理由

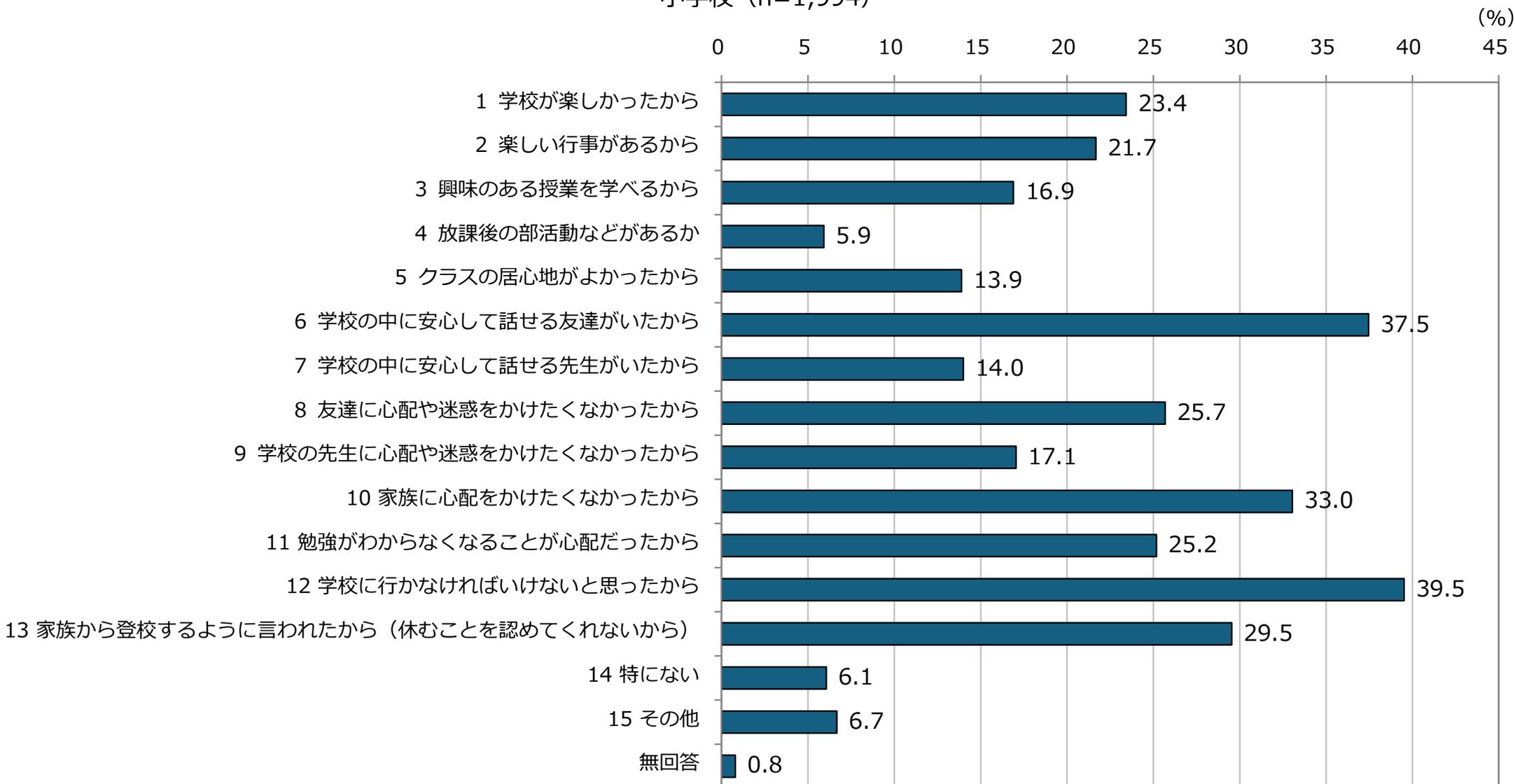
「学校を欠席したい」と思ったときや学校を欠席したとき、誰にも相談しなかった理由についてみると、高等学校では「特にない」の割合が45.2%と最も高い。次いで、「何をどのように話したらよいかわからなかったから」「相談したときの相手の反応が不安だったから」「相談した相手に迷惑をかけると思ったから」がそれぞれ2割を超えている。



10. 学校を欠席しなかった理由

「欠席したい」と思っても学校を欠席しなかった理由についてみると、小学校では「学校に行かなければいけないと思ったから」の割合が39.5%と最も高く、「学校の中に安心して話せる友達がいたから」が37.5%と続く。

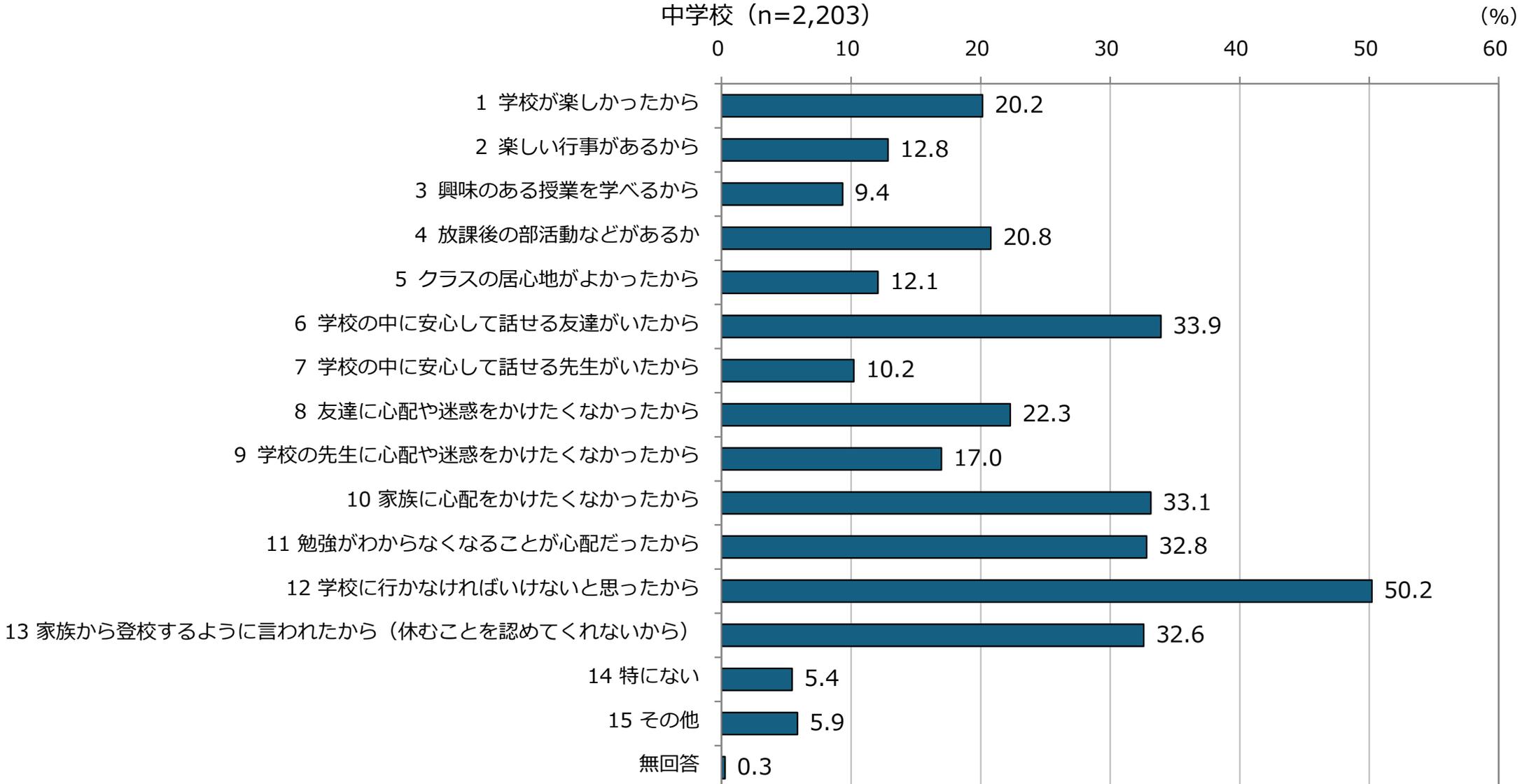
「欠席したい」と思っても、学校を欠席しなかった理由
小学校 (n=1,994)



10. 学校を欠席しなかった理由

「欠席したい」と思っても学校を欠席しなかった理由についてみると、中学校では「学校に行かなければいけないと思ったから」の割合が50.2%と最も高く、次いで「学校の中に安心して話せる友達がいたから」「家族に心配をかけたくなかったから」「勉強がわからなくなることが心配だったから」「家族から登校するように言われたから」が3割強となっている。

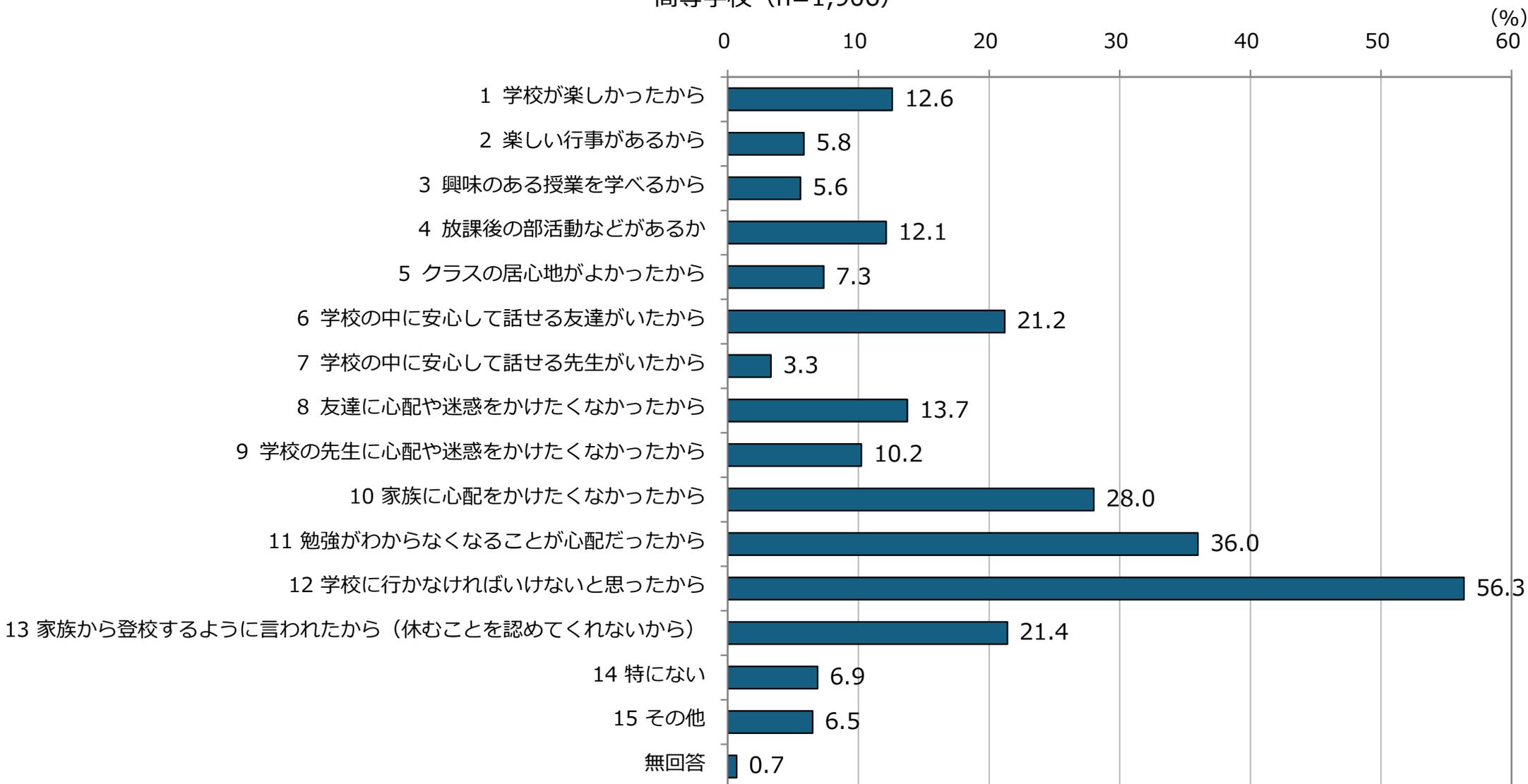
「欠席したい」と思っても、学校を欠席しなかった理由
中学校 (n=2,203)



10. 学校を欠席しなかった理由

「欠席したい」と思っても学校を欠席しなかった理由についてみると、高等学校では「学校に行かなければいけないと思ったから」の割合が56.3%と最も高く、次いで「勉強がわからなくなることが心配だったから」が36.0%となっている。

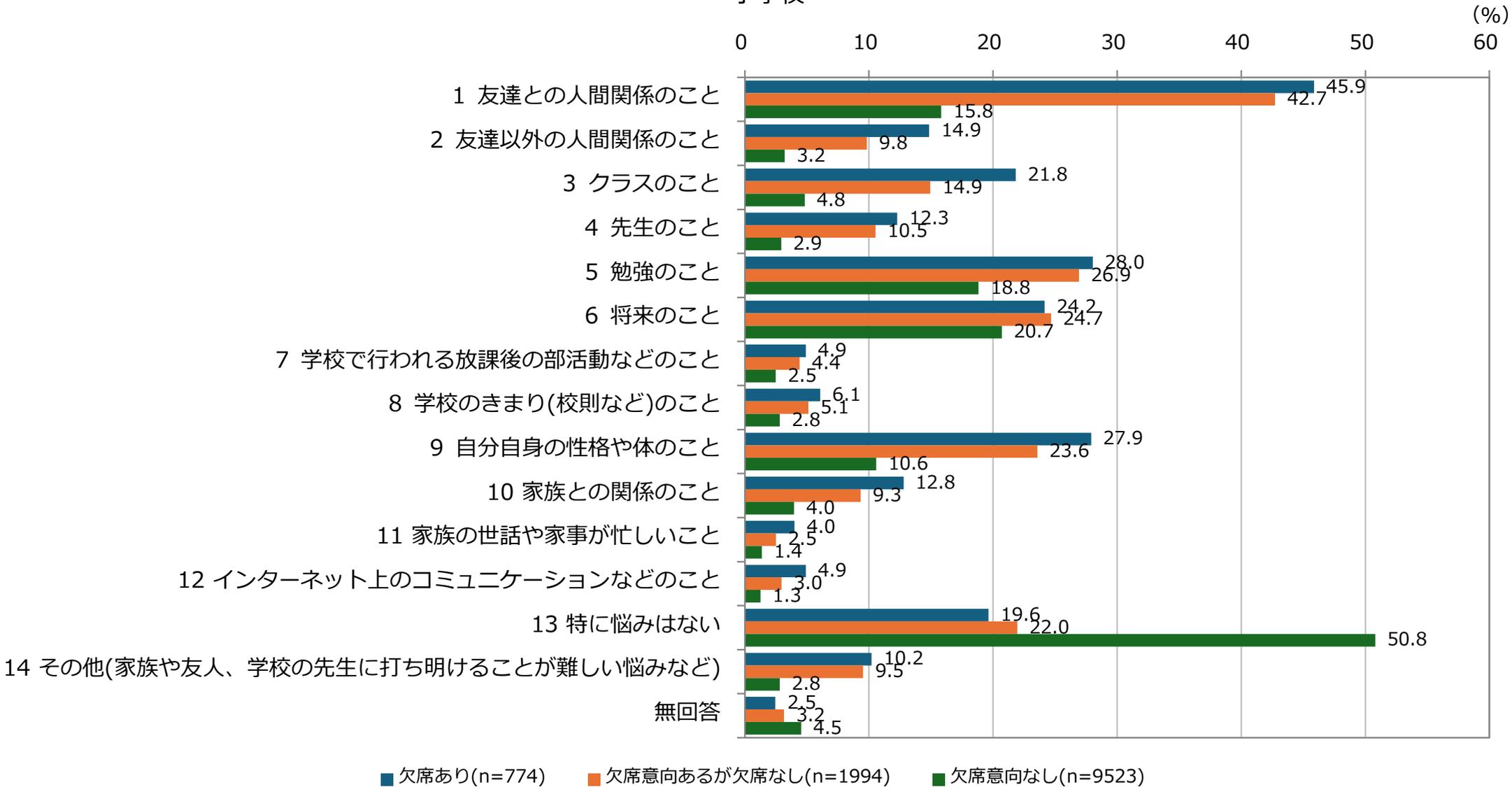
「欠席したい」と思っても、学校を欠席しなかった理由
高等学校 (n=1,906)



11. 現在、悩んでいること

欠席傾向別に、現在、悩んでいることについてみると、小学校では、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの児童は「友達との人間関係のこと」の割合が高く4割を超えている。一方で、欠席意向なしの児童は「特に悩みはない」の割合が50.8%と最も高い。

現在、悩んでいることがあるか
小学校

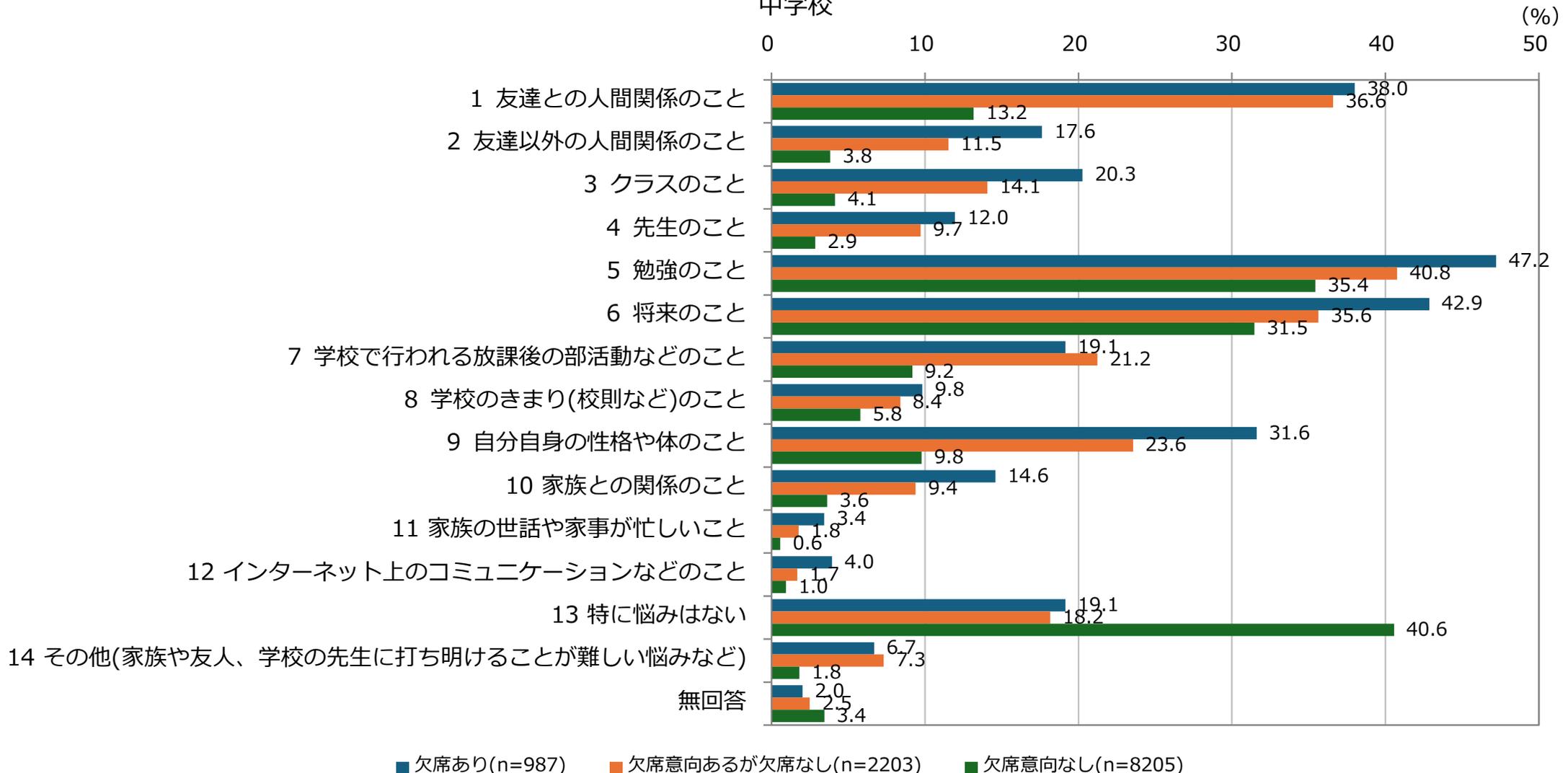


11. 現在、悩んでいること

欠席傾向別に、現在、悩んでいることについてみると、中学校では、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの生徒は「勉強のこと」の割合が高く4割を超えている。また、欠席ありでは「将来のこと」も4割を超え高い。一方で、欠席意向なしの生徒は「特に悩みはない」の割合が40.6%と最も高い。

また、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの生徒は欠席意向なしの生徒と比べて「友達との人間関係のこと」「自分自身の性格や体のこと」の割合が高い。

現在、悩んでいることがあるか
中学校



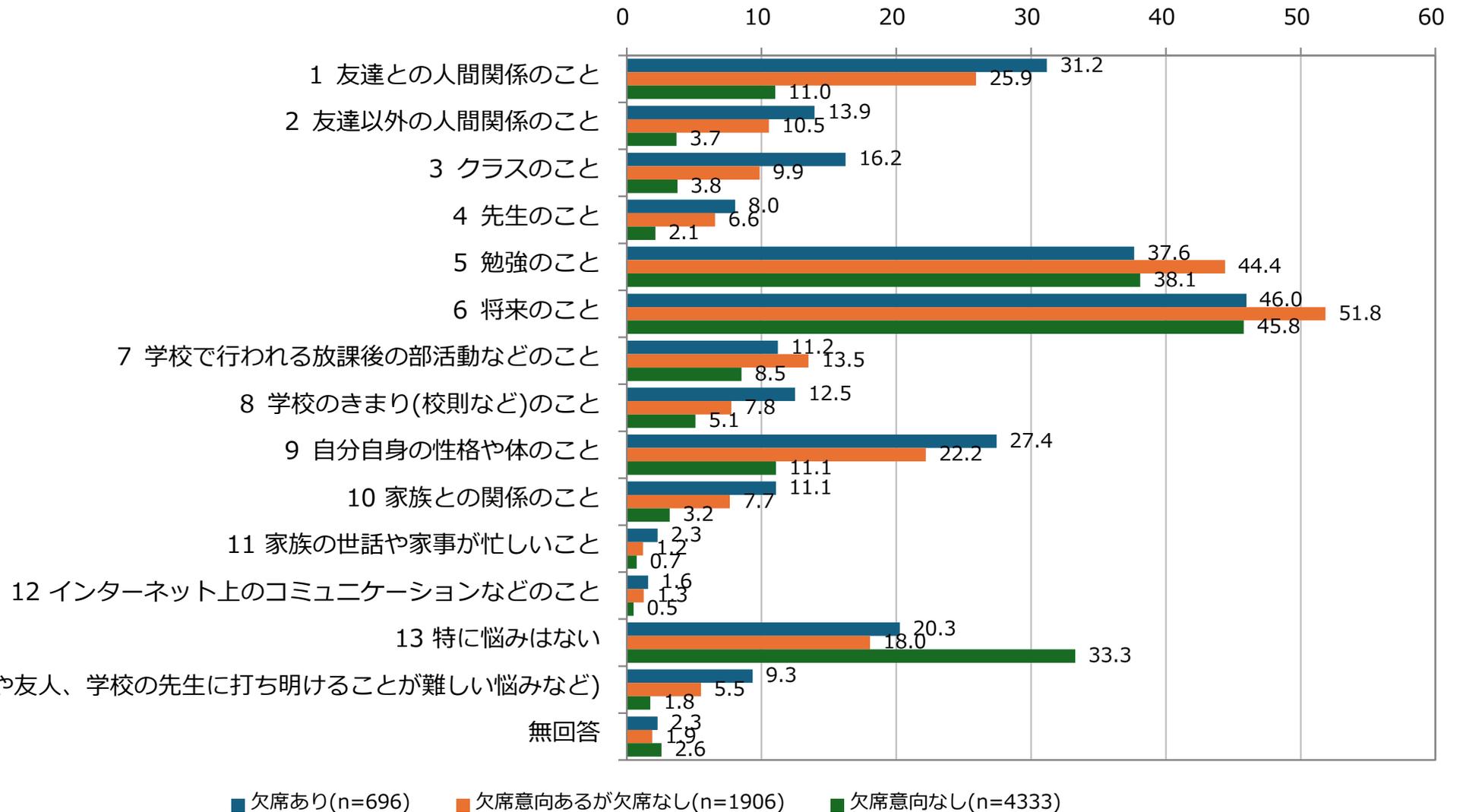
11. 現在、悩んでいること

欠席傾向別に、現在、悩んでいることについてみると、高等学校では、いずれの生徒も「将来のこと」「勉強のこと」の割合が高い。この傾向は、欠席意向あるが欠席なしの生徒で顕著である。

また、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの生徒は欠席意向なしの生徒と比べて「友達との人間関係のこと」「自分自身の性格や体のこと」の割合が高く、欠席意向なしの生徒は「特に悩みはない」の割合が高い。

現在、悩んでいることがあるか
高等学校

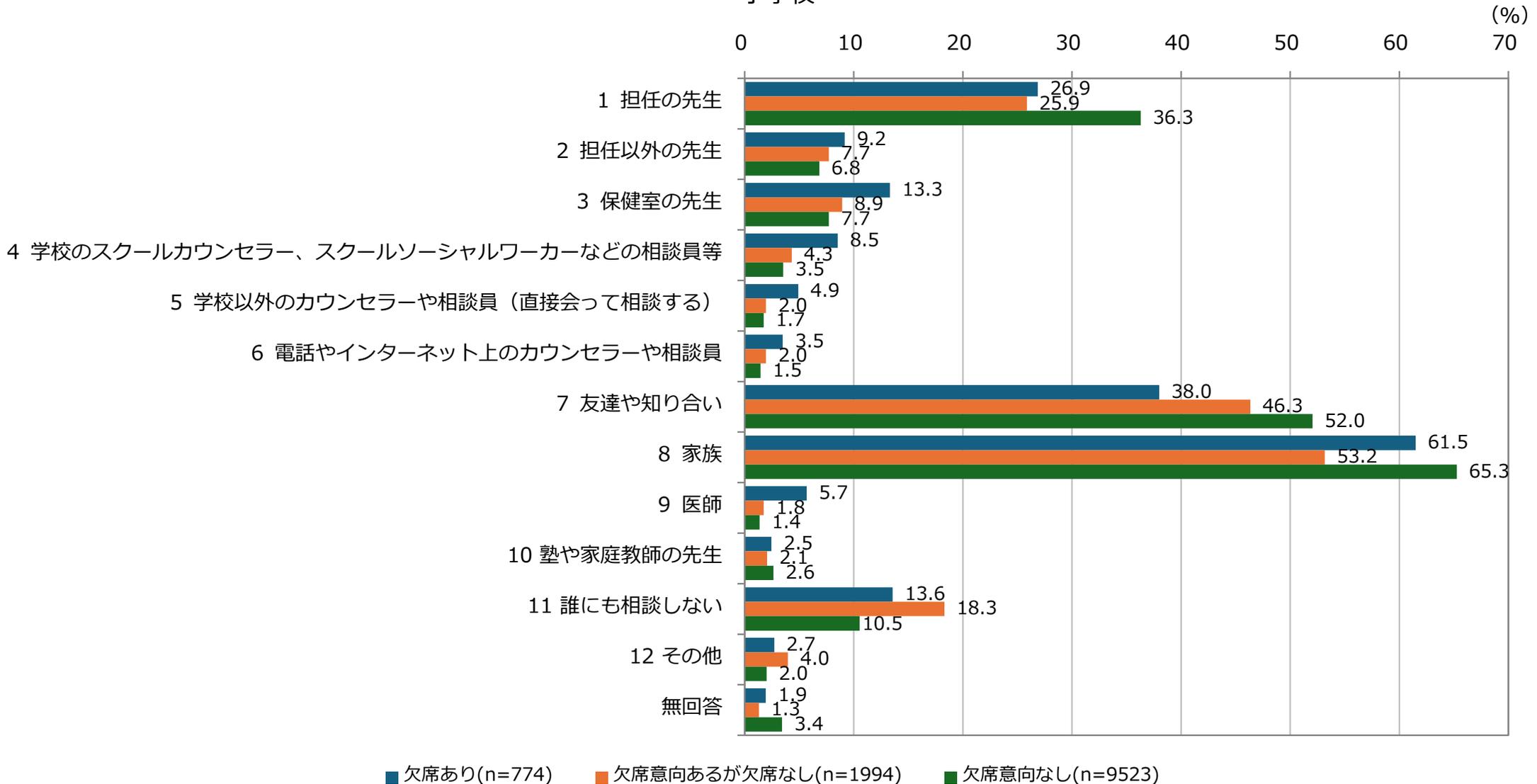
(%)



12. 現在、悩んでいること

欠席傾向別に、悩んでいるときに誰に相談したいと思うかについてみると、小学校では、欠席あり、欠席意向あるが欠席なし、欠席意向なしのいずれも「家族」「友達や知り合い」「担任の先生」の順番で割合が高い。

何かに悩んでいるときに、そのことを相談するとしたら、誰に相談したいと思うか
小学校

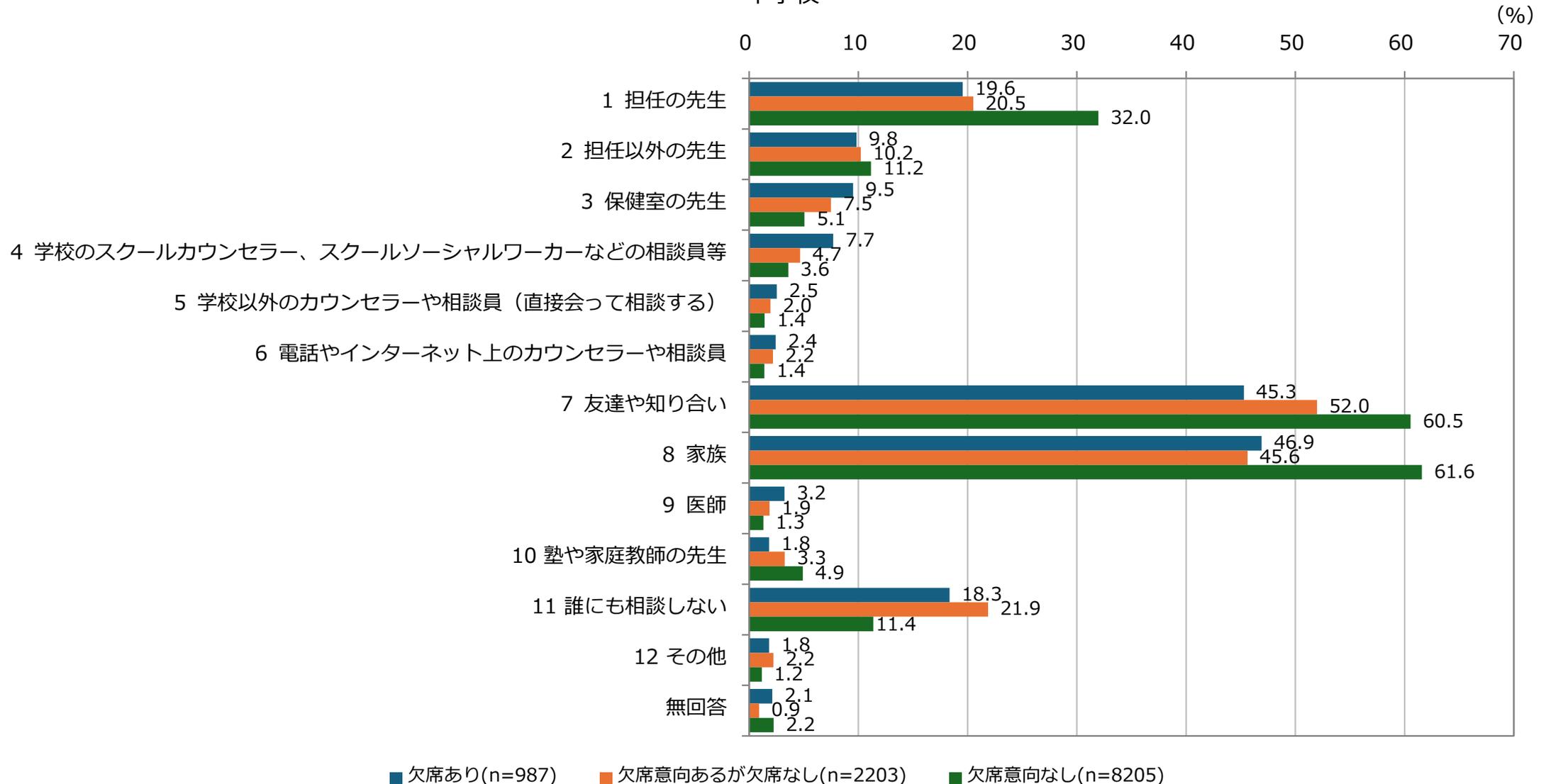


12. 現在、悩んでいること

欠席傾向別に、悩んでいるときに誰に相談したいと思うかについてみると、中学校では、欠席あり、欠席意向あるが欠席なし、欠席意向なしのいずれも「家族」「友達や知り合い」の割合が高い。

欠席あり、欠席意向あるが欠席なしでは2割程度が「誰にも相談しない」と回答している。

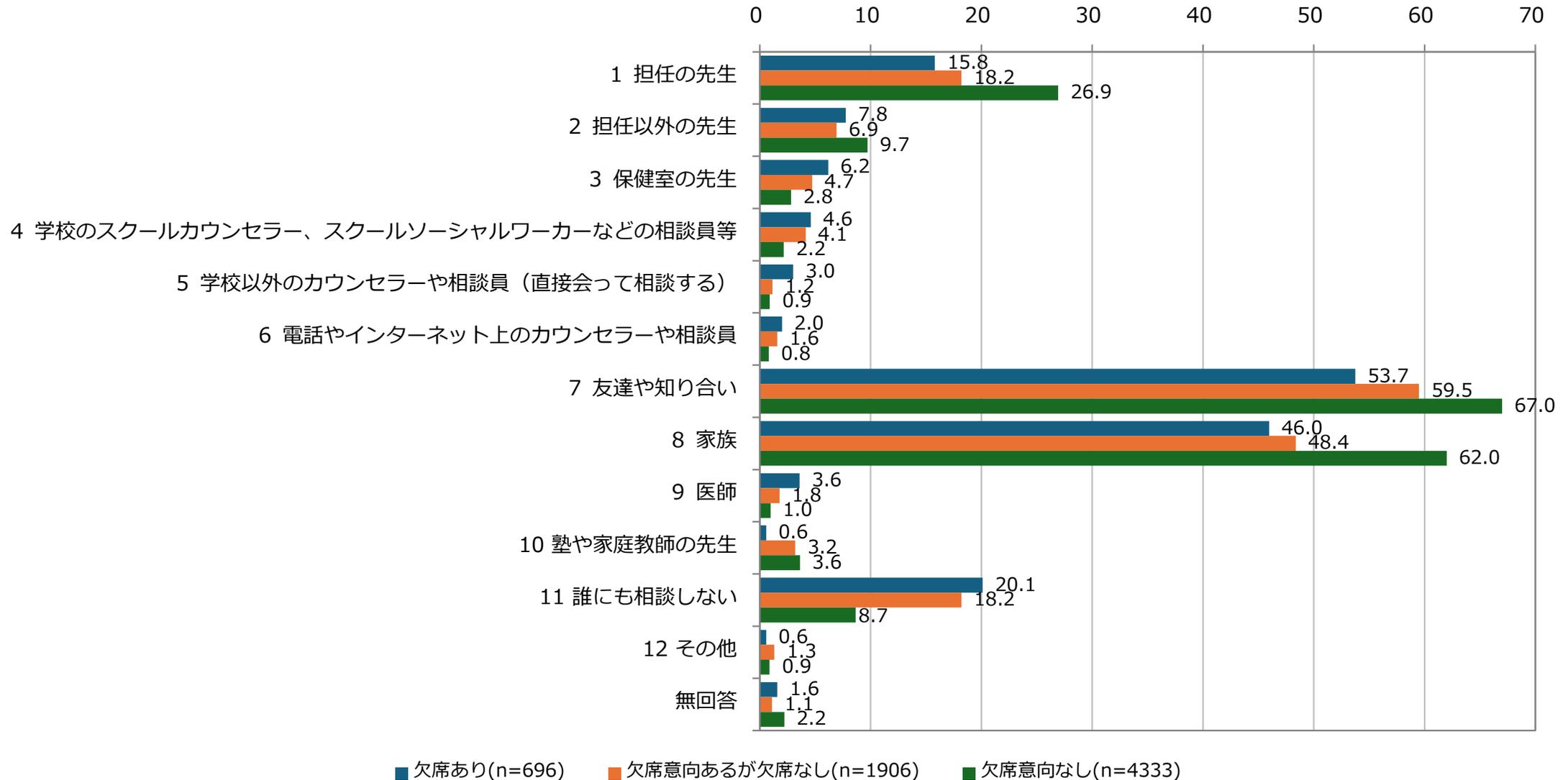
何かに悩んでいるときに、そのことを相談するとしたら、誰に相談したいと思うか
中学校



12. 現在、悩んでいること

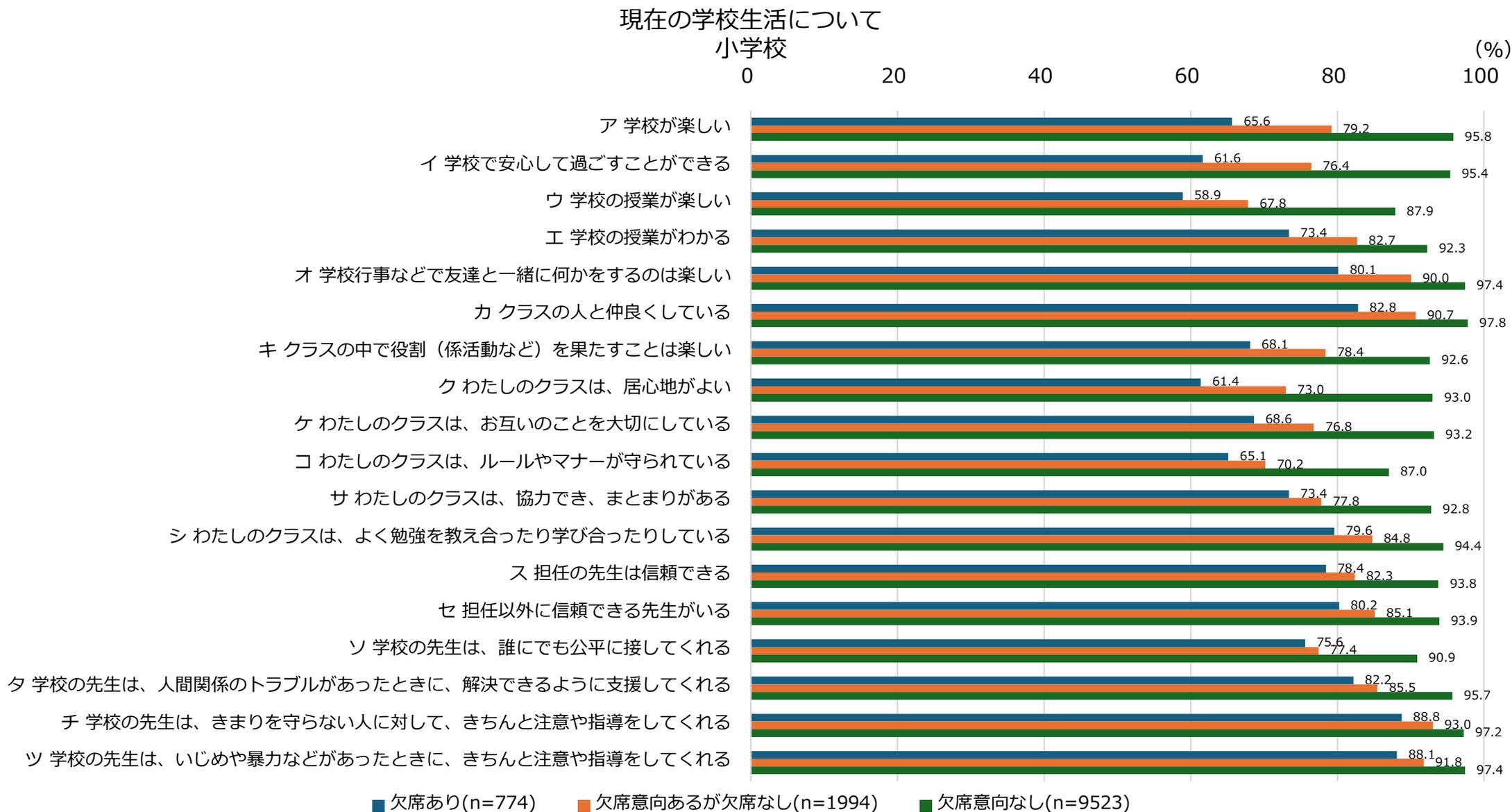
欠席傾向別に、悩んでいるときに誰に相談したいと思うかについてみると、高等学校では、欠席あり、欠席意向あるが欠席なし、欠席意向なしのいずれも「家族」「友達や知り合い」の割合が高い。
 欠席あり、欠席意向あるが欠席なしでは2割程度が「誰にも相談しない」と回答している。

何かに悩んでいるときに、そのことを相談するとしたら、誰に相談したいと思うか
 高等学校 (%)



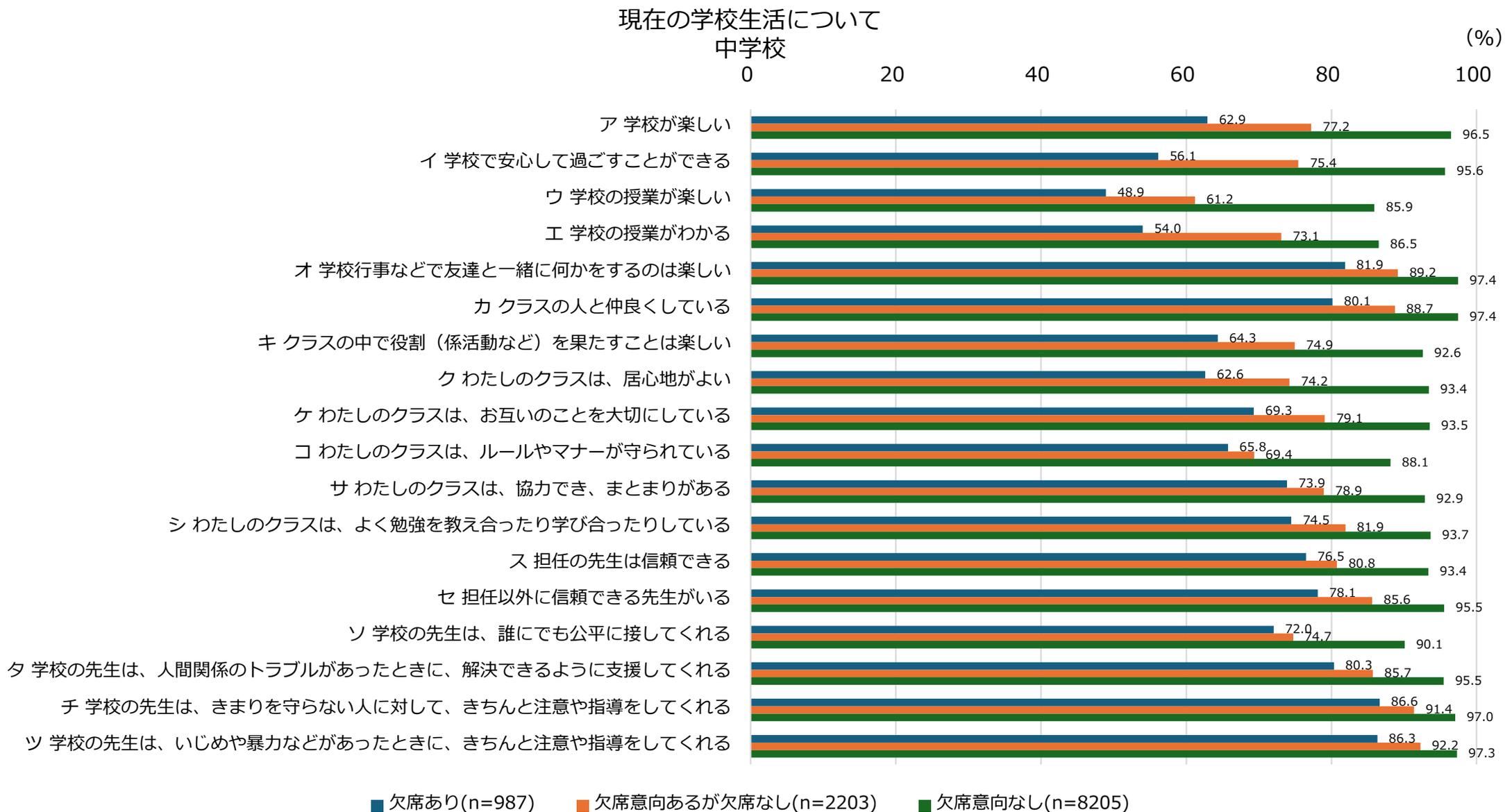
13. 現在の学校生活について

欠席傾向別に、現在の学校生活についてみると、小学校では、いずれの項目も欠席意向なしの児童の方が、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの児童と比べて点数が高い（あてはまる）。特に、「学校で安心して過ごすことができる」「学校が楽しい」「わたしのクラスは、居心地がよい」について、欠席意向なしと欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの差が大きい。



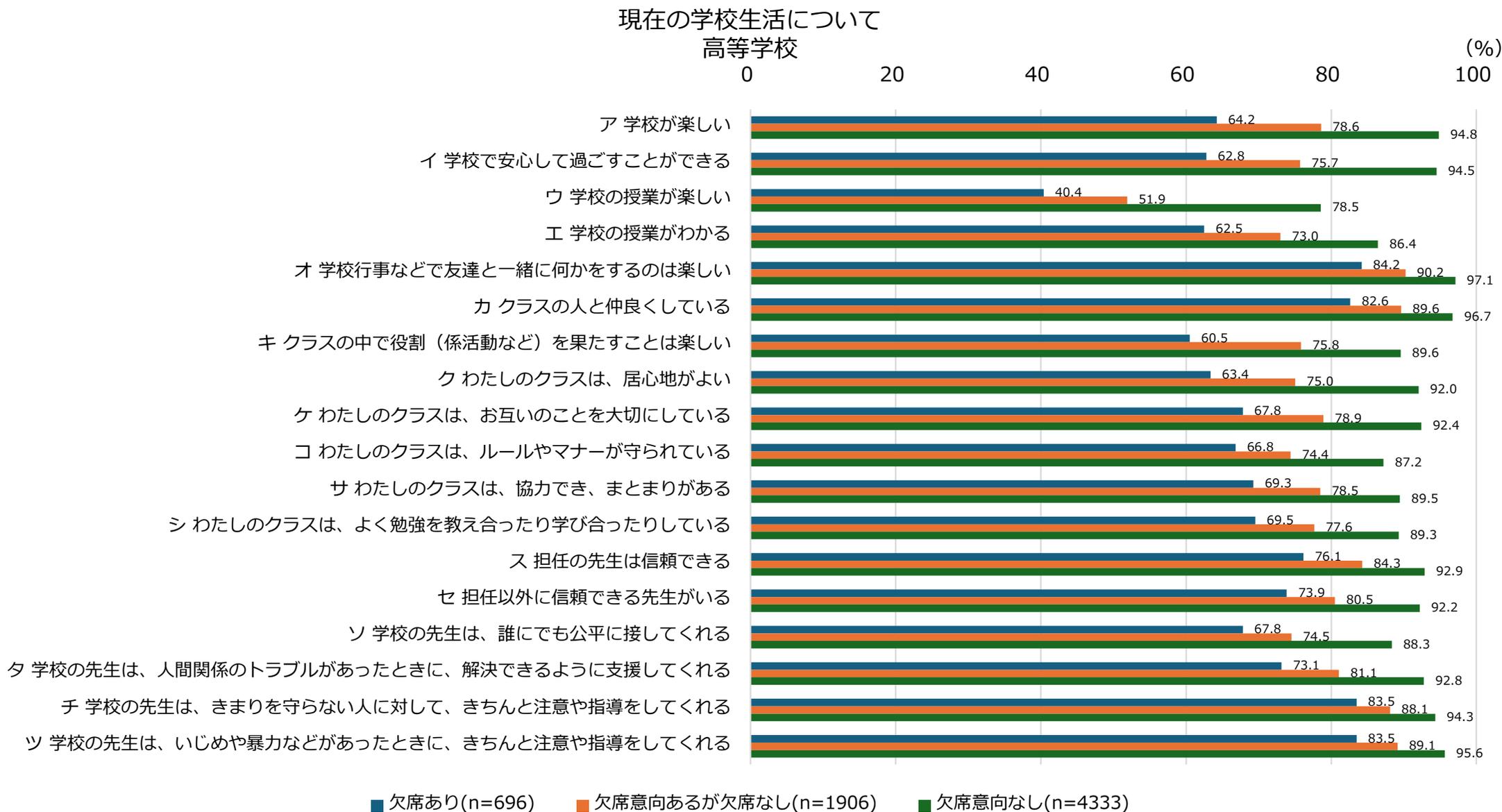
13. 現在の学校生活について

欠席傾向別に、現在の学校生活についてみると、中学校では、いずれの項目も欠席意向なしの生徒の方が、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの生徒と比べて点数が高い（あてはまる）。特に、「学校で安心して過ごすことができる」「学校が楽しい」「わたしのクラスは、居心地がよい」について、欠席意向なしと欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの差が大きい。



13. 現在の学校生活について

欠席傾向別に、現在の学校生活についてみると、高等学校校では、いずれの項目も欠席意向なしの生徒の方が、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの生徒と比べて点数が高い（あてはまる）。特に、「学校で安心して過ごすことができる」「学校が楽しい」「わたしのクラスは、居心地がよい」「学校の授業が楽しい」について、欠席意向なしと欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの差が大きい。



14. 学校や先生に期待すること

学校が安心して学び生活できる場所になるために、学校や先生にどのようなことを期待するかについてみると、小学校では、いずれの児童でも「学校行事が楽しくなるようにしてほしい」の割合が高い。

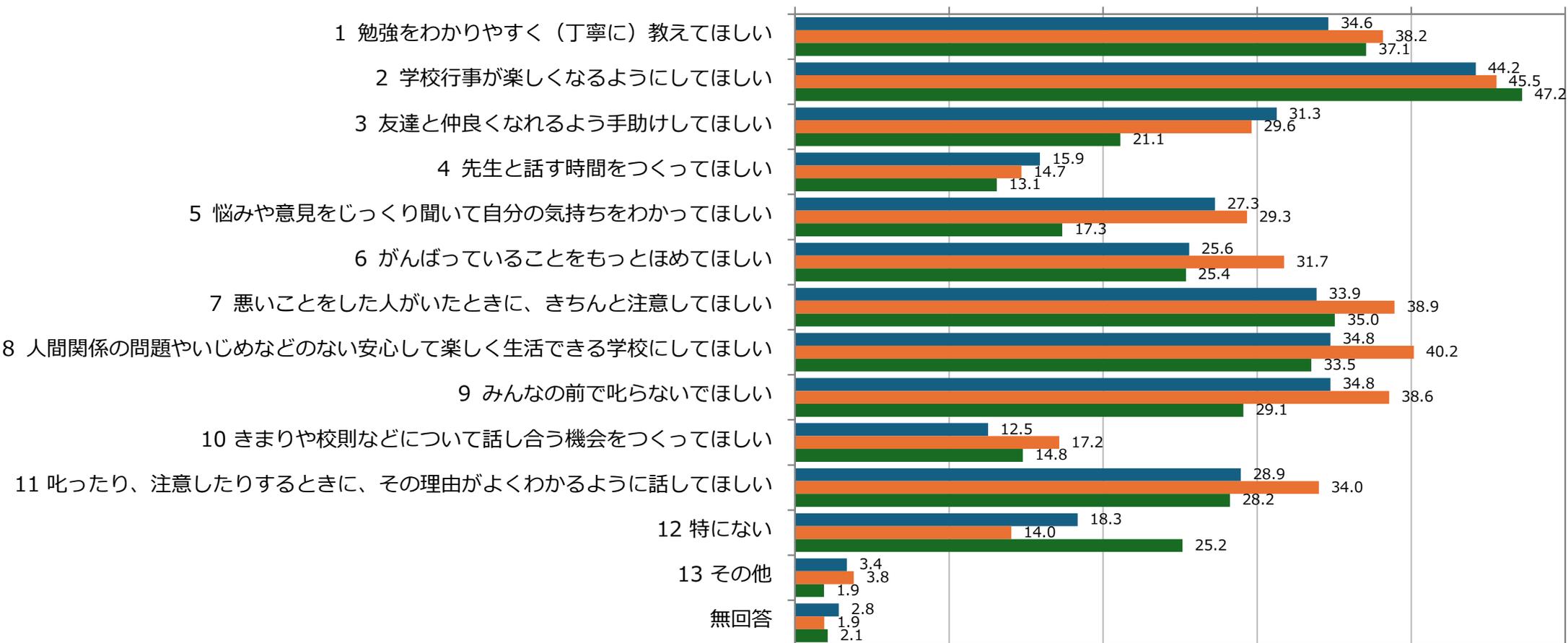
欠席傾向別にみると、欠席意向あるが欠席なしの児童は「人間関係の問題やいじめなどのない安心して楽しく生活できる学校にしてほしい」「悪いことをした人がいたときに、きちんと注意してほしい」「みんなの前で叱らないでほしい」「叱ったり、注意したりするときに、その理由がよくわかるように話してほしい」等の割合が他と比べて高い。

学校が安心して学び生活できる場所になるために、学校や先生にどのようなことを期待しますか

小学校

(%)

0 10 20 30 40 50



■ 欠席あり(n=774) ■ 欠席意向あるが欠席なし(n=1994) ■ 欠席意向なし(n=9523)

14. 学校や先生に期待すること

学校が安心して学び生活できる場所になるために、学校や先生にどのようなことを期待するかについてみると、中学校では、いずれの生徒でも「学校行事が楽しくなるようにしてほしい」「勉強をわかりやすく（丁寧に）教えてほしい」の割合が高い。

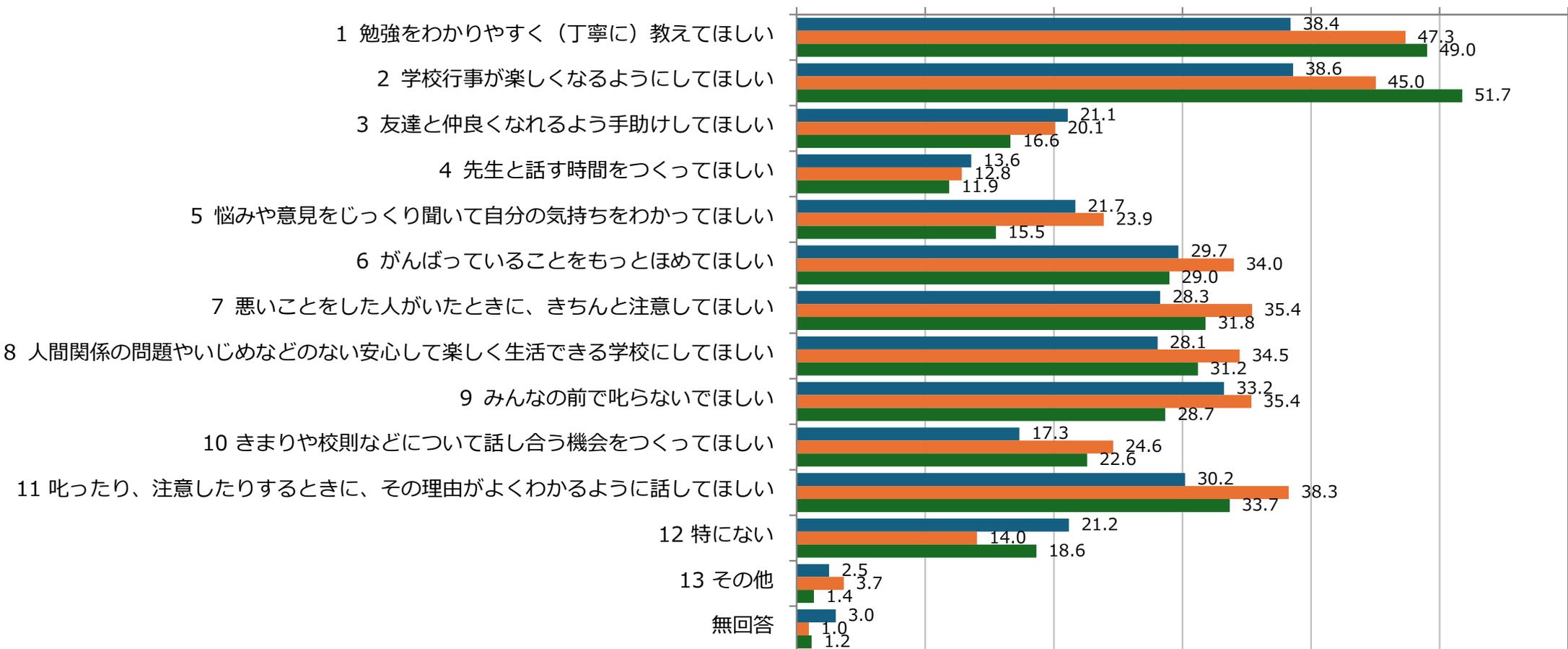
欠席傾向別にみると、欠席意向あるが欠席なしの生徒は「叱ったり、注意したりするときに、その理由がよくわかるように話してほしい」「悪いことをした人がいたときに、きちんと注意してほしい」「みんなの前で叱らないでほしい」「人間関係の問題やいじめなどのない安心して楽しく生活できる学校にしてほしい」等の割合が他と比べて高い。

学校が安心して学び生活できる場所になるために、学校や先生にどのようなことを期待しますか

中学校

(%)

0 10 20 30 40 50 60



■ 欠席あり(n=987)

■ 欠席意向あるが欠席なし(n=2203)

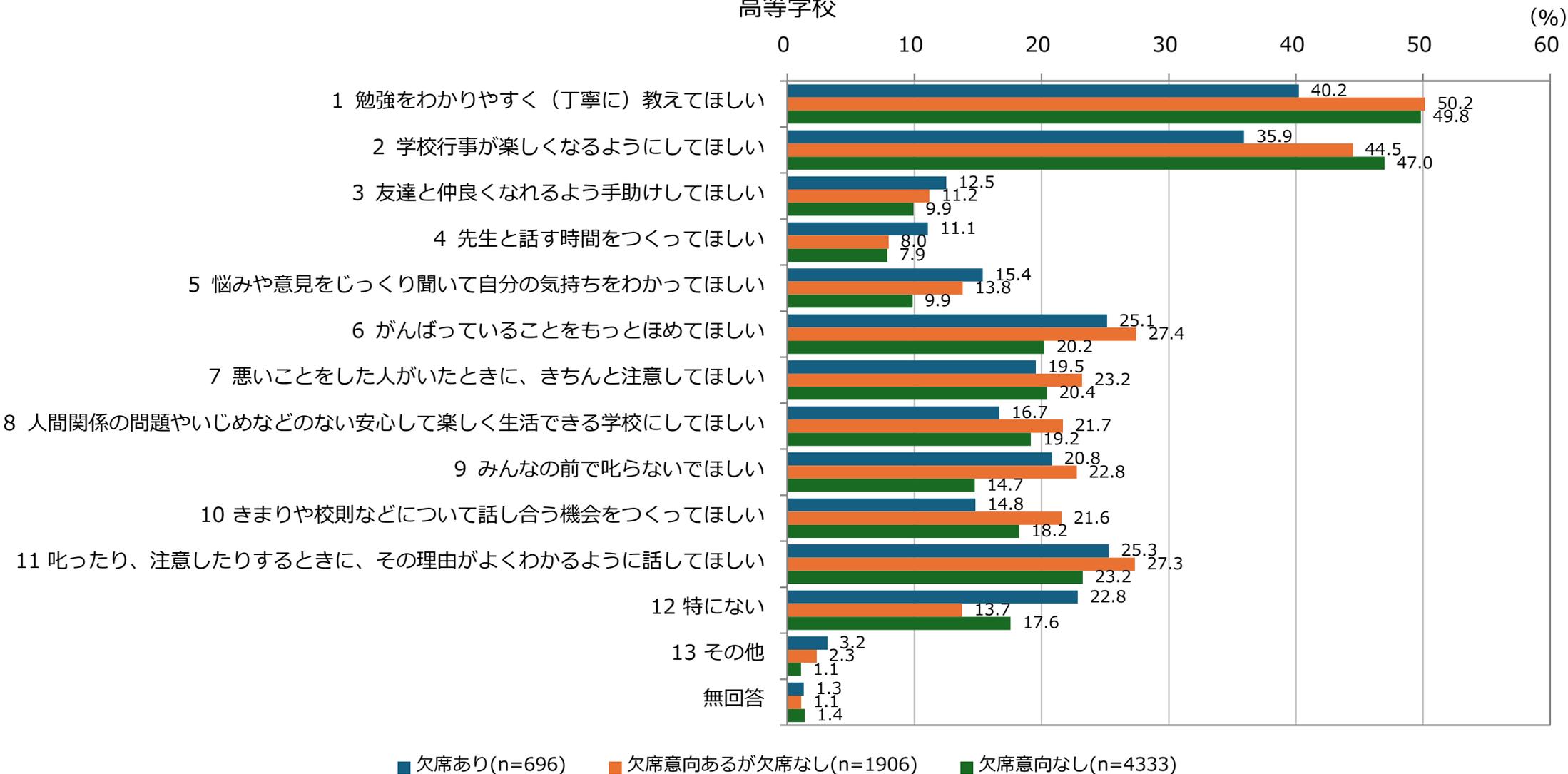
■ 欠席意向なし(n=8205)

14. 学校や先生に期待すること

学校が安心して学び生活できる場所になるために、学校や先生にどのようなことを期待するかについてみると、高等学校では、いずれの生徒でも「勉強をわかりやすく（丁寧に）教えてほしい」の割合が高く、次いで「学校行事が楽しくなるようにしてほしい」の割合が高い。

欠席傾向別にみると、欠席意向あるが欠席なし、欠席ありの生徒は「がんばっていることをもっとほめてほしい」「みんなの前で叱らないでほしい」の割合が、欠席意向なしの生徒と比べて高い。

学校が安心して学び生活できる場所になるために、学校や先生にどのようなことを期待しますか
高等学校



まとめ

- 小学校では、欠席したいと思ったことがある児童が22.8%、うち実際に休んだのが27.4%（全体の6.2%）。
 - 中学校では、欠席したいと思ったことがある生徒が28.1%、うち実際に休んだのが30.7%（全体の8.6%）。
 - 高校では、欠席したいと思ったことがある生徒が37.7%、うち実際に休んだのが26.4%（全体の10.0%）。
- ⇒学校段階が上がるほど、欠席したいと思う児童生徒、実際に休む児童生徒の割合が高くなり、高校段階では1割程度が病気やけが以外の理由で欠席している。
- 欠席したいと思ったきっかけは「友達との人間関係のこと」の割合が高い。高校では、「生活リズムのこと」「勉強のこと」などの割合も高い。また、実際に欠席した児童生徒では「身体の不調のこと」の割合が高い（欠席したい気持ちが、身体の不調をきっかけに実際の欠席につながる）。
 - 学校を欠席した児童生徒が、どのようなことがあれば学校を欠席したい気持ちを減らせたかについては、「学校の中に一緒にいて安心できる友達がいること」の割合が高い。
 - 欠席したいと思ったが欠席しなかった理由は、「学校に行かなければいけないと思ったから」の割合が高い。小中学校では「学校の中に安心して話せる友達がいたから」の割合も高い。中学・高校では「勉強がわからなくなることが心配だったから」の割合も高い。
 - 欠席傾向別に現在悩んでいることをみると、欠席あり・欠席意向あるが欠席なしの児童生徒は、欠席意向なしの児童生徒と比べて「友達との人間関係のこと」に悩んでいる割合が高い。また、中学校では欠席ありの生徒が、高等学校では欠席意向あるが欠席なしの生徒が、「勉強のこと」「将来のこと」に悩んでいる割合が高い。
- ⇒欠席したいと思う要因として「友達」の存在は大きく、実際の欠席を踏みとどまらせていることもあるとみられる。中学・高校では「勉強」も欠席をふみとどまった要因になっている。一方で、欠席したい気持ちが実際の欠席になる要因として「身体的な不調」も影響が大きいと思われる。
- 学校を休んだ時の気持ちは、「ほっとした・気持ちが楽になった」「自由な時間が増えてうれしかった」の割合が高い。一方、「勉強が遅れてしまうので心配だった」と考える児童生徒も多い。
 - 現在の学校生活については、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの児童生徒は、欠席意向なしの児童生徒と比べて「学校で安心して過ごすことができる」「学校が楽しい」「わたしのクラスは、居心地がよい」とは思っていない割合が高い。
- ⇒欠席した児童生徒は「ほっとした・気持ちが楽になった」割合が多い。また、現在、学校で安心して過ごせる、居心地が良いとは思っていない割合が高い。
- 学校を欠席した児童生徒が誰かに相談した割合は半数程度。相談した相手は、8～9割が家族、2～3割が担任の先生。中学校以上では、友達や知り合いにも3～4割が相談している。
 - 相談しなかった理由は、小中学校では「何をどのように話したらよいかわからなかったから」「相談した相手に迷惑をかけたから」「相談したときの相手の反応が不安だったから」。高等学校では、「特になし」の割合が高くなる。
 - 欠席傾向別に悩んでいるときに相談したい相手を見ると、欠席あり、欠席意向あるが欠席なしの児童生徒は、欠席意向なしの児童生徒と比べて「誰にも相談しない」割合が高く2割前後存在する。
- ⇒欠席した児童生徒は半数近くは家族に相談している。一方で、欠席した生徒の残り半数は相談していない。欠席していない児童生徒の2割程度は、悩んだときに「誰とも相談しない」と考えている。